

官報

號外 昭和九年三月二十三日

○第六十五回 貴族院議事速記録第三十號

昭和九年三月二十二日(木曜日)午前十時二十九分開議

議事日程 第三十號

昭和九年三月二十二日

午前十時開議

第一 日本銀行金買入法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第二 貿易調節及通商擁護ニ關スル法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第三 輸出生絲販賣統制法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第四 石油業法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 昭和七年度第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第六 昭和七年度特別會計第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第七 昭和七年度特別會計豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第八 昭和七年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第九 昭和八年度第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十 昭和八年度特別會計第二豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十一 昭和八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)(衆議院送付) 會議

第十二 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 會議

第十三 著作權法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 商標法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 不正競争防止法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 秋田鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十七 播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會

第十九 所得稅法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十 議院法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十一 金錢債務臨時調停法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十二 司法代書人法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十三 蕪處理法案(衆議院提出) 第一讀會

第二十四 速記士法案(衆議院提出) 第一讀會

第二十五 建築士法案(衆議院提出) 第一讀會

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス

(角倉書記官朗讀) 去ル十九日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和九年度歲入歳出總豫算追加案(第一號) 昭和九年度各特別會計歲入歳出豫算追加案(特第一號) 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號) 臺灣事業公債法中改正法律案 臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案 製鐵所特別會計法廢止法律案 健康保險法中改正法律案 廢兵院法中改正法律案 同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ 出版法中改正法律案 同日議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ 度量衡制度調査會設置ニ關スル建議案(公爵鷹司信輔君外十七名發議) 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル未成年者飲酒禁止法ノ改正法制定ニ反對ノ請願外三十二件ノ請願ハ各、意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ 同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ 鐵道敷設法中改正法律案可決報告書 河川法中改正法律案可決報告書 同日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ 商標法中改正法律案特別委員會 委員長 伯爵二荒 芳徳君 副委員長 江口 定條君

三七八

官報號外 昭和九年三月二十三日 貴族院議事速記録第三十號 議長ノ報告

明治二十五年三月三十日 第三種郵便物認可

輸出組合法中改正法律案特別委員會

- 委員長 伯爵兒玉 秀雄君
- 副委員長 男爵四條 隆英君

治安維持法改正法律案特別委員會

- 委員長 公爵一條 實孝君
- 副委員長 山岡萬之助君

地方財政補整交付金法案特別委員會

- 委員長 田所 美治君
- 副委員長 子爵井上 勝純君

同日委員長ヨリ決算委員太田清藏君ヲ第三分科擔當委員ニ選定シタル旨ノ報告書ヲ提出セリ

一昨二十日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

日本銀行金買入法案

貿易調節及通商擁護ニ關スル法律案

輸出生絲販賣統制法案

石油業法案

昭和七年度第一豫備金支出ノ件

昭和七年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和七年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和七年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

昭和八年度第二豫備金支出ノ件

昭和八年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

司法代書人法中改正法律案

滿處理法案

速記士法案

建築士法案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

會計検査院法中改正法律案可決報告書

著作權法中改正法律案修正報告書

商標法中改正法律案可決報告書

不正競争防止法案可決報告書

秋田鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、本日濱口儀兵衛君ヨリ病氣ニ付キ、衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員ノ辭任ノ申出ガゴザイマシタ、許可ヲスルコトニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、濱口君ノ補闕トシテ三木與吉郎君ヲ指名イタシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第一、日本銀行金買入法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、高橋大藏大臣

日本銀行金買入法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長 公爵近衛文麿

日本銀行金買入法案

日本銀行金買入法

第一條 政府ハ金ヲ國內ニ保有スル爲大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ金ヲ買入レ之ヲ保有セシムルコトヲ得

第二條 日本銀行ハ本法ニ依リ買入ルル金ノ買入價格ニ付大藏大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三條 本法ニ依リ買入レタル金ハ之ヲ兌換銀行券ノ引換準備ニ充ツベシ

第四條 政府ハ本法ニ依リ日本銀行ガ買入レタル金ノ買入價格ト其ノ金ヲ純金ノ量目七百五十ミリグラムニ付一圓ノ割合ヲ以テ評價シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ補填スル爲同行ニ對シテ同額ノ債務ヲ負擔シ借入金證書ヲ交付ス

前項ノ債務ハ無利子トシ一億圓ヲ限度トス

第五條 政府ハ海外拂其ノ他特別ノ必要アリト認ムルトキハ日本銀行ニ對シ本法ニ依リ買入レタル金ヲ其ノ買入價格ヲ以テ同行ニ於ケル國庫金ノ勘定ニ移スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本銀行ハ國庫金ノ勘定ニ移シタル金ニ付其ノ買入價格ト其ノ金ヲ純金ノ量目七百五十ミリグラム

ムニ付一圓ノ割合ヲ以テ評價シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ政府ニ納付スベシ

第六條 日本銀行ハ本法ニ依リ買入レ保

有スル金ニ付利益ヲ生ジタルトキハ其ノ利益ニ相當スル金額ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ政府ニ納付スベシ

第七條 第四條第一項ノ政府ノ債務ハ第五條第二項及前條ノ納付金ノ納付ノトキニ之ヲ償還ス

第八條 政府ハ日本銀行ニ對シ同行ガ本法ニ依ル金ノ買入ノ爲ニ發行スルヲ要シタル兌換銀行券ノ發行額ニ對シ納付シタル發行稅額ニ相當スル金額ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ交付ス

ムニ付一圓ノ割合ヲ以テ評價シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ政府ニ納付スベシ

第六條 日本銀行ハ本法ニ依リ買入レ保

有スル金ニ付利益ヲ生ジタルトキハ其ノ利益ニ相當スル金額ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ政府ニ納付スベシ

第七條 第四條第一項ノ政府ノ債務ハ第五條第二項及前條ノ納付金ノ納付ノトキニ之ヲ償還ス

第八條 政府ハ日本銀行ニ對シ同行ガ本法ニ依ル金ノ買入ノ爲ニ發行スルヲ要シタル兌換銀行券ノ發行額ニ對シ納付シタル發行稅額ニ相當スル金額ヲ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ交付ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ日本銀行ニ於ケル國庫金ノ勘定ニ屬スル金ヲ政府ガ同行ニ移ス場合ニ於テハ同行ノ受入ルル金ハ之ヲ本法ニ依リ買入ルルモノト看做ス

〔國務大臣高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリマシタ日本銀行金買入法案ニ付テ説明ヲ致シマス、政府ハ昭和七年三月以來、外國爲替ノ買入ヲシテ海外送金ヲスルコトヲ止メニシテ、其代リニ國庫ノ勘定ヲ以テ内地產金ヲ買上ゲルコトトシテ、サウシテ之ヲ海外ニ送金シテ、政府ノ海外支拂ニ充當シテ、以テ金輸出再禁止後ニ於ケル我國產金業者ノ困難ヲ緩和シ、産金獎勵ニ資シテ來タノ

デアリマスガ、此所作ハ偶、政府海外拂ノ爲替相場ニ及ボス影響ヲ輕減スル結果トモナツタデアリマス、然ルニ最近ニ於ケル國際經濟ノ情勢ハ著シク變化シマシタノミナラス、我方國際收支ハ顯著ナル改善ノ跡ヲ示シテ居リマス、其實情ニ鑑ミマシテ金ハ成ルベク之ヲ國內ニ保有シ、正貨準備ノ充實ヲ圖ルコト方適當ト認メラルルニ至ツタノデアリマス、然ルニ現行ノ金ノ買上方法ニ依リマスレバ、金ハ之ヲ海外ニ現送スルコトヲ要シマスノデ、此方法デハ金ヲ國內ニ保有スルノ目的ハ達成セラレナイノデアリマス、依テ金ノ保有高ノ増加ヲ圖リ、併セテ産金獎勵ニ資スル爲メ、日本銀行ヲシテ金ノ買入ヲ爲シ、之ヲ保有セシメ、之ガ爲メ政府ハ日本銀行ニ對シ當分ノ間一億圓ヲ限リ債務ヲ負擔スル必要ガアリマスノデ、茲ニ本法案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

讀イタサセマス

(小林書記官朗讀)

日本銀行金買入法案特別委員

- 公爵山縣 有道君 侯爵徳川 頼貞君
- 伯爵黒木 三次君 子爵梅小路定行君
- 子爵西尾 忠方君 子爵舟橋 清賢君
- 男爵小畑太郎君 男爵松岡 均平君
- 男爵長 基連君 西野 元君
- 菊池 恭三君 小倉 正恒君
- 上松 泰造君 佐々木八十八君
- 田中徳兵衛君 大澤徳太郎君
- 野村 徳七君 大西虎之介君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、貿易調節及通商擁護ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、高橋大藏大臣

貿易調節及通商擁護ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和九年三月二十日
衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿
(小字及一ハ衆議院ノ修正ナリ)

貿易調節及通商擁護ニ關スル法律案
第一條 政府ハ外國ノ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對シテ貿易ヲ調節シ又ハ通商ヲ擁護スル爲メ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅調

査委員會ニ諮問シ期間及物品ヲ指定シ關稅定率別表輸入稅表ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ輸入稅ヲ課シ若ハ輸入稅ヲ減免シ又ハ輸入若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ違反シテ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ七千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル物品ノ價額ノ三倍ガ七千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ中立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ行為者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス
第五條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニ付亦同ジ

入稅ヲ課シ若ハ輸入稅ヲ減免シ又ハ輸入若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス禁止又ハ制限ニ違反シテ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ七千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル物品ノ價額ノ三倍ガ七千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ中立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ行為者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第五條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行為ニ付亦同ジ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス
前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行為ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

(國務大臣高橋是清君演壇ニ登ル)

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリマシタ貿易調節及通商擁護ニ關スル法律案ノ説明ヲ致シマス、最近世界通商上ニ於キマシテ、國際的協調ノ誠意ナク、各國何レモ自國本位ノ政策ヲ執ル傾向ガ著シイヤウニ見受ケラレルノデアリマス、殊ニ本邦商品ノ海外進出ガ極メテ活潑トナリマシタコトニ刺激セラレマシテ、右ノ傾向ハ一層顯著トナリ、或ハ高率ナル關稅ヲ課シ、或ハ輸入ヲ制限スル等ノ方法ニ依リマシテ、我國ノ輸出貿易ニ對シ障壁ヲ築カムトスルモノガ漸ク多キヲ加ヘムトスルヤウナ情勢ニ在ルノデアリマス、斯ノ如キ情勢ニ鑑ミ將來ヲ慮リマスルト、今後各國ノ措置如何ニ依リマシテ、之ニ對シテ貿易ヲ調節シ、以テ國際收支ノ均衡ヲ圖リ、又ハ本邦ノ通

商ヲ擁護イタシマスル爲ニ、輸入税ヲ増減シ、又ハ輸出入ノ禁止制限ヲスルト云フガ如キ手段ヲ執ルノ必要ガ生ズルコトナキヲ保シ難イノデアリマス、而シテ右ノ如キ各種ノ措置ハ事態ノ如何ニ依リマシテ、所謂機ニ臨ミ變ニ應ズルコトガ必要ナラザラマスカラ、今日ニ於テ豫メ右ニ關スル制度ヲ設ケテ置キ、以テ將來ニ備フル所アラムトスル次第デアリマスガ、固ヨリ自ラ好シクニ事端ヲ繁カラシメムトスルガ如キ態度ニ出ヅル考ヘハナイノデアリマシテ、寧ロ本法ヲ活用スルノ必要ヲ生ズルガ如キ機會ノ生ゼザラムコトヲ希望スルノデアリマスルガ、現下ノ情勢ニ鑑ミマスル時ハ、臨時ノ方策トシテ此程度ノ準備ヲ整ヘテ置キマスコトハ、誠ニ已ムヲ得ナイコトデアルト考ヘルノデアリマス、政府ハ大體右ノ如キ趣旨ヲ以テ本法草案ヲ提出イタシマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ニ對シテハ質疑ノ通告ガゴザイマス、通告順ニ依リマシテ桑山君ニ發言ヲ許シマス

○桑山鐵男君 私人ノ御尋ネ致シタイコトハ極メテ簡單デゴザイマスカラ、此席カラ發言ヲ御許シテ願ヒマス

○議長(公爵近衛文麿君) 宜シウゴザイマス

○桑山鐵男君 問題ニナツテ居リマスル法案ヲ拜見イタシマスルト、輸入税ヲ増加シ、又ハ減免シ、輸出入ヲ禁止又ハ制限イタシ

マス規定ヲ設クルコトヲ、法律ヲ以テ勅令ニ委任イタサウト云フ御案ノヤウニ拜見イタシマス、斯様ナコトガ此手續ニ依ラズ憲法九條ノ命令ニ依リテハ出來ナイガ故ニ、此法律案ヲ御提出ニナツタモノト考ヘマスルガ、左様ニ了解シテ宜シウゴザイマスカ、竝ニ私ハ委任命令ト云フモノニ付キマシテ、不法デアルトカ、憲法違反デアルトカ申スモノデアリマセヌガ、斯様ニ廣汎ナル範圍ニ互リマシテ、法規ノ規定ヲ勅令ニ委任イタシマスルコトハ穩當デナイ、憲法違反ノ疑ヒガアルノデアリナイカ、斯様ニ考ヘル、此點ニ付キマシテ左様ナ疑ヒハナイノダト云フ政府ノ御説明ヲ伺ヒタイ、私ノ御尋ハ政府ノ御答辯ノ模様ニ依リマシテ、現内閣ガ憲法ニ對シテ如何ナル考ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ伺フコトガ出來ルモノト考ヘマスルガ故ニ、總理大臣カラ御願スルノガ相當トモ思ヒマスルケレドモ、事專ラ法理論ニ互リマシテ、齋藤サンニ御願ヒ致シマスルヨリモ松本商工大臣……、御指名ヲ申上ゲマシテ甚ダ恐縮デゴザイマスルガ、松本商工大臣又ハ黑崎法制局長官カラ御答辯ヲ戴キマスコトガ出來マシタナラバ、非常ニ仕合ト思ヒマス

〔政府委員黒崎定三君演壇ニ登ル〕

○政府委員(黒崎定三君) 只今桑山サンカラ御尋ネニナリマシタ點ハ二ツノヤウニ拜見イタシマシタ、其第一ハ本案ヲ以テ命令ニ委任イタシテ居リマスル事項ハ、憲法第九條ノ定ムル命令デハ規定出來ナイモノデ

アルカドウカ、是ガ第一點ノヤウニ拜見イタシマシタ、本法第一條ニ於キマシテ、事項ヲ特定イタシマシテ、命令ヲ以テ定ムルコトヲ委任イタシマシタノガ、即チ憲法第九條デ許サレテ居リマスル命令ダケデハ賄ヒ兼ネル意味合カラ致シマシテ、本法一條ニ斯ノ如キ委任ノ規定ヲ致シタ次第デゴザイマス、第二ノ、斯カル廣汎ナル範圍ニ於テ命令ニ委任スルコトハ、即チ立法事項ヲ命令ニ委任スルコトハ憲法違反デアリナイカ、斯ウ云フ御尋ト拜承イタシマス、此點ニ付キマシテハ委任命令ガ憲法違反デアるか否カト云フコトハ、學者ノ學說ニモ分レテ居ルヤウニ承知イタシテ居リマス、我ガ憲法ノ解釋ト致シマシテ、政府ノ執ツテ居リマスル所ハ、其先例ニ徵シマシテモ、本案ヲ以テマシテ定ムルト致シマスル此委任ノ範圍ハ、結論ニ於テ憲法ノ趣旨ヲ蹂躪イタシテ居ルモノデアリナイト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ或特定ノ場合ニ於キマシテ、或範圍ニ於テ、特定ノ範圍ニ於キマシテ、法律自ラ定ムベキ事柄ヲ、命令ヲ以テ定ムルコトヲ法律ガ規定イタスノデアリマシテ、是等ノ事例ハ最近ノ例ト致シマシテ、前年兩院ノ御協賛ヲ經マシタル、而シテ現在現行法トナツテ居リマス米穀統制法ニモ其規定ガゴザイマスル、尙ホ現在ノ關稅定率法ノ第四條ト存ジマスルガ、是亦輸入税ノ物品ノ價格ト同額ノ、詰リ關稅定率法ニ定メテ居ル稅率ノ上ニ、當該物品ノ價格ト同額以下ノ關稅ヲ、命令ノ定ムル所ニ依ツテ課シ

得ベキ旨ヲ定メテ居ルト記憶イタシテ居リマス、是等ノ事例ガ現在存シテ居ルノデアリマシテ、畢竟法律自ラ定ムベキ事柄ヲ命令ヲ以テ定メシムルコトヲ法律ガ定メルノダ、斯ウ云フ趣旨デゴザイマスル、憲法ニハ違反シナイモノト考ヘテ居ルノデゴザイマス、御答ヘ致シマス

〔桑山鐵男君演壇ニ登ル〕

○桑山鐵男君 只今ノ御答辯ニ依リマシテ、遺憾ナガラ私ノ疑問ガ氷解イタシマセヌ、カルガ故ニ、何ガ故ニ私ガ是ガ憲法違反デアルノデアリナイカト考ヘテ居リマスル其理由ヲ政府ニ申上ゲマシテ、更ニ憲法違反ニアラズト云フ御説明ヲ戴クコトニ致シタイト思ヒマス、帝國憲法第五條ニ「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ」、斯様ニ規定イタサレテ居リマス、此事ハ申上ゲル迄モナク、法規ヲ定ムル、臣民ノ權利義務ニ關スル事項ヲ定ムルニ付テハ、帝國議會ノ協賛ヲ經タル法律ヲ以テシナケレバナラズト云フ原則ヲ掲ゲタモノデアリマスル、又事新シク申上ゲマスルコトモ甚ダ恐縮ニ存ジマスルガ、立憲政治ハ三權分立ノ政治デアリマス、立法、司法、行政ノ三權ヲ各別ノ機關ニ掌ラシメマスノガ立憲政治デアリマス、帝國憲法第五條、只今申上ゲマシタ第五條ニ、立法權ニ付キマシテハ帝國議會ガ天皇ノ立法ニ關與スルコトヲ定メテ居リマス、司法權ニ付キマシテハ確カ五十七條カト記憶イタシマスルガ、五十七條ニ「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」ト

下ノ關稅ヲ、命令ノ定ムル所ニ依ツテ課シ

得ベキ旨ヲ定メテ居ルト記憶イタシテ居リマス、是等ノ事例ガ現在存シテ居ルノデアリマシテ、畢竟法律自ラ定ムベキ事柄ヲ命令ヲ以テ定メシムルコトヲ法律ガ定メルノダ、斯ウ云フ趣旨デゴザイマスル、憲法ニハ違反シナイモノト考ヘテ居ルノデゴザイマス、御答ヘ致シマス

明記イタサレテ居リマスル、此事カラ考ヘ
マシテモ、又憲法第二章ニ臣民ノ權利義務
ニ關シマスル詳細ノ規定ヲ設ケマシテ、是
等ノ事項ニ付キマシテハ法律ヲ以テ之ヲ規
定シナケレバナラスト云フコトヲ定メテ居
リマスルノ見マシテモ、臣民ノ權利義務
ニ關シマスル事項ハ必ズ法律ヲ以テ規定ス
ベキモノデアルト云フコトハ、何等疑ヒナ
イコトト考ヘルノデアリマス、唯前ニモ申
上ゲマシタル通り、カルガ故ニ私ハ委任命
令、即チ法規ヲ、法律ヲ以テ其制定ヲ命令
ニ委任スルコトガ不適法デアアル、憲法違反
デアルト申上ゲルノデアリマセヌ、唯憲
法ニ法規ハ法律ヲ以テ定ムルコトヲ原則ト
致シマスルガ故ニ、委任命令トシテ規定シ
得ル範圍ハ極メテ制限的ノモノデアアル、例
外的ノ場合デアルト斯様ニ考ヘルノデアリ
マス、今本法案ニ付テ見マスルト、「政府ハ
外國ノ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對シ
テ貿易ヲ調節シ又ハ通商ヲ擁護スル爲メ特
ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ
依リ關稅調査委員會ニ諮問シ期間及物品ヲ
指定シ關稅定率別表輸入稅表ニ定ムル輸入
入稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ輸入
稅ヲ課シ若ハ輸入稅ヲ減免シ又ハ輸出若ハ
輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得」ト斯
様ニゴザイマス、只今法制局長官ハ特定ノ
場合ニ、特定ノ範圍ニ於テ、法律自ラ定ム
ベキ事項ヲ命令ヲ以テ定メシムルコトヲ規
定イタスノハ憲法違反デナイ、不法デナイ、
斯様ニ仰セラレマシタ、併ナガラ第一條ヲ

巨細ニ拜見イタシマスルト、「政府ハ外國ノ
執リ又ハ執ラントスル措置ニ對シテ」ト
場合ガ限ラレテ居リマス、「貿易ヲ調節シ又
ハ通商ヲ擁護スル爲メ」ト目的ガ限ラレテ居
リマス、「特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令
ノ定ムル所ニ依リ」ト斯様ニゴザイマス、
「關稅調査委員會ニ諮問シ」、單獨ニハ出來
ナイ、關稅調査委員會ニ諮問シナケレバナ
ラヌ、「期間及物品ヲ指定シ」トマデ定メテ
居リマス、又無暗ニ輸入稅ヲ増加シ得ルニ
アラズシテ、「關稅定率別表輸入稅表ニ定
ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以
下」ト斯様ニ制限ガアル、即チ特定ノ範圍デ
ハナイカ、此特定ノ範圍ニ於テ法規ヲ定ム
ルコトヲ勅令ニ委任スルノデアアルガ故ニ憲
法違反デハナイ、斯様ナ意味カト拜察イタ
シマス、併ナガラ只今申上ゲマシタ「外國
ノ執リ又ハ執ラントスル措置」デアルトカ、
「貿易ヲ調節シ又ハ通商ヲ擁護スル爲メ」ト
カ、斯様ナコトハ「外國ガ執リ又ハ執ラン
トスル措置」ガアルカナイカト云フコトハ
誰ガ見ルカ、政府ガ御覽ニナルノデアリマ
ス、國民ガ、斯様ナ措置ヲ外國ガ執ラウト
スルト云フコトヲ言フノデアリマセヌ、
「貿易ヲ調節シ又ハ通商ヲ擁護スル爲メ」、是
モ誰ガ御覽ニナルカト言ヘバ、政府ガ御覽
ニナル、寧ロ國民カラ申シ、或ハ客觀的ニ申
セバ貿易ノ調節ノ必要ナシ、通商ヲ擁護スル
ノ必要ナキ場合ニ於キマシテモ、此勅令ヲ
發スルコトガ出來ルノデアアル、又「特ニ必
要アリト認ムルトキハ」ト云フコトハ、是

ハ勿論政府ガ御認定ニ相成ルコトハ勿論ノ
コトデアリマス、「關稅調査委員會ニ諮問シ」ト
ゴザイマスルケレドモ、關稅調査委員會ハ立法
機關デナイコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、
「期間及物品ヲ指定シ」、唯漠然トシテ輸入
ヲ禁止スルトカ、輸出ヲ禁止スルトカ、斯
様ナコトヲナサルコトハ法律デモ出來ナイ
コトデナイカ、又事實ニ於テ左様ナコトガ
アリ得ヤウト思ヘナイ、シテ見マスルト茲
ニ「期間及物品ヲ指定シ」ト云フ文句ガアリ
マスルケレドモ、是ハ何モ特定ノ事項ヲ定メ
タモノデハナイ、又「關稅定率別表輸入稅
表ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同
額以下」、最高額ヲ定メテ居ルデヤナイカト
仰セラレマスルケレドモ、是トテ唯最高ノ
額ヲ定メタニ止マルノデアリマシテ、如何
様ナル額ヲ課スルカト云フコトハ政府ノ御
隨意デアリマス、斯ク考ヘテ見マスルト此
第一條ハ、政府ハ必要アリト認ムルトキハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ期間及物品ヲ指定シ
是レノ輸入稅ヲ課シ、若ハ輸入稅ヲ減
免シ又ハ輸出若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲
スコトヲ得ト書イテアルノト同様にコトカ
ト考ヘラレマス、即チ輸入稅ノ制限、輸出
ノ禁止制限モ、勝手ニ政府ガ出來ルト云フコ
トニ相成ッテ來ルノデハナイカト思フノデ
アリマス、此法案ガ衆議院ノ委員會ニ於キ
マシテ審議サレマシタ時ニ中島代議士ハ、
「況ヤ今日ノ時勢ニ於キマシテハ、動トモス
レバ議會ノ權力ヲ否認イタシマシテ、伊太
利ヤ獨逸ノ如キ「ナチス」ノ思想ヲ以テ、フ

アッシュヨ」ノ思想ヲ以テ、此立法權ヲ一方カ
ラ取り上ゲルト云フヤウナコトノ流行スル
此世ノ中デアリマス、此時代ノ思潮ニ棹シ
テ乗ックノガ此法律デアルト私共解釋イタ
シマス、而シテ我ニ立法府ノ一人ト致シマ
シテハ、ドウシテモ此立法權ノ血墨法城ヲ
護ルト云フ所ニ私共力ヲ置イテ居ルノデス、
決死ノ覺悟ヲ以テ此「フアッシュヨ」政治ヲ排
撃シナケレバナラナイ、所謂「フアッシュズム」、
楚人ノ一炬ガ此法律デハナイカト私共ニハ
思ハレル位デアアル、朝ニ一城ヲ取ラレ、夕ニ
二城ヲ奪ハレ、遂ニ全立法權ヲ没却セシム
ルト云フ時ガ來ナイトモ限ラナイ、斯様ナ
コトヲ仰セラレテ居ル、又更ニ「帝國立法院
ノ興廢此法律ノ如何ニアリ」ト云フ悲壯ナル
言葉モ發シテ居ラレルノデアリマス、斯ク
テ中島代議士ハ此法律ニ依リマシテ發動イ
タサレマシタ、發布イタサレマシタ勅令
ハ、事後承諾ヲ議會ニ求メロト云フ御主張
ヲ爲サレタノデアリマス、ガ委員會ニ於キ
マシテハ其主張ハ成立イタシマセヌデシタ、
更ニ本會議ニ於キマシテモ小川郷太郎君ガ、
政府ノ見込デ隨時之ヲ發動セシムルコトト
ナリ、而モ議會開會中ト雖モ之ヲ議會ニ掛
ケヌト云フ非常權能ヲ持ツクモノデアアル、
斯ル法律ヲ認ムルコトハ立憲政治ヲ紊ルモ
ノデアアル、故ニ議會開會中ハ之ヲ議會ニ諮
リ、閉會中ハ事承諾ノ手續ヲ執ルヤウ修
正ヲ加ヘル所以デアアル、尙ホ最近何デモ命
令ニ委任スル傾向ガアルガ、斯ル弊風ハ打
破シナケレバナラス、是レ立憲政治擁護ノ

本質デアル、斯様ニ述ベラレテ居リマス、更ニ昨日ノ時事カト思ヒマスルガ、「通商擁護法鵜呑ミ、獨裁ニ不安募ル、政府ノ權限餘リニ廣汎過ギ、貿易業者前途ヲ憂慮」、斯ウ云フ見出シヲ以テマシテ、前略イタシマスルガ、「大體政府案丸呑ミトナリ、一、原案第一條關稅調查委員會ニ諮問」スルヲ要ストアルヲ「ノ議ヲ經テ」トス、…是ハ修正デアリマス、修正ト云フコトヲ報告イタシテ居リマス、…二、同附則「本法ハ施行後五年間ヲ限リ其效力ヲ有ス」ヲ「三年間」トス、ノ二點ヲ修正シタノミデ、依然政府ノ獨裁ヲ認容シタ同法案ガ、議會ノ事後承諾ヲ無視シタル所以ノモノハ、一旦政府ニ依ッテ執ラレタ處置ガ其後議會デ批判サレ、且不幸ニシテ否決サレル如キコトアラバ政府ノ威信ヲ缺クノミナラス、外交上不利デアリ、其結果ハ國內貿易關係者ヲシテ動搖常ナキ事態ニ陥ラシメル、仍テ斷乎外ニ當ル爲ニハ強キ獨斷專行ガ必要デアルト云フニアル、政府ノ修正ニ應ゼラレナイ理由ヲ斯様ニ報道イタシテ居リマス、サウシテ更ニ「併シ右法案委員會ニ於ケル政府當局ノ説明ヲ綜合スルト、其第一條、政府ハ外國ノ執リ…此第一條ハ全部書イテ居リマス…報復處置ヲ執ルト稱シテ居リナガラ、其執リ又ハ執ラントスル措置並右ニ對應スル場合、手段方法等ノ種大問題ニ關シ、具體的ニ解説スル所ナク、徒ニ一種机上ノ抽象的印象ヲ深カラシメタニ過ギナイ、仍テ該法ノ運用如何ニ依ッテハ、政治經濟ニ及ボス實際的影響

ハ非常ニ憂慮サレ、之ガ發動ノ結果ハ單リ貿易業者ノ不安ヲ激化セシムルノミナラズ、一般國內ノ消費生活ヲモ脅カスコトトモナルノデ、其成行ハ頗ル不安視サレテ居ル、政府ガ衆議院ノ委員會ニ於キマシテノ修正意見、事後承諾ヲ求ムルコトニシタラドウカト云フコトニ對シマシテ御同意ノナカッタコトハ、私モ同感デアリマス、政府ハ只今朗讀イタシマシタ此新聞ノ報道ハ別ト致シマシテ、速記録ニ依リマスルト、立法技術上斯様ナコトハ困難デアアル、或ハ委任勅令ニ事後承諾ヲ求ムルヤウナ先例ガナリ、斯様ナコトガ政府ノ反對ノ御理由カト承ハルノデアリマス、政府ノ表面仰セラレマシタ反對ノ理由ハ之ヲ別ト致シマシテ、私ノ考ヘル所ニ依リマスルト、事後承諾ヲ、此法律ニ依リマシテ發シマシタ勅令ニ付キマシテ、議會ノ事後承諾ヲ求ムル必要アリト云フコトヲ、此法律ノ中ニ書クト云フコトニ致シマスルトハ、憲法上重大ナル疑問ヲ更ニ加フルコトニナリマス、御承知ノ通り我ガ議會ハ主權ヲ持ッテ居ルノデアリマセヌ、主權ハ、天皇ニ在ル、議會ト致シマシテハ憲法ノ與ヘラレタル職能ヲ有スルニ止マルノデアリマス、憲法ニ規定サレテアル以外ニ、少クトモ法律的ニハ議會ハ何等ノ行動ヲ爲シ得ナイノデアリマス、殊ニ事後承諾ニ關スル規定ハ、憲法第八條、所謂緊急命令ヲ發シマシタ時ニ事後承諾ヲ求メト云フコトガ八條ニ明記イタサレテ居リマス、更ニ七十條、所謂財政上

ノ緊急處分ヲ爲シマシタ場合ニ、事後承諾ヲ議會ニ求メト云フコトガ明記イタサレテ居リマス、事後承諾ニ付キマシテ憲法ニ規定イタシテ居リマスルノハ此二ツノ場合ダケデアリマス、然ルニ此法律ヲ以テマシテ議會ノ事後承諾ヲ求メナケレバナラヌト云フヤウナ規定ヲ置キマスコトハ、憲法ノ規定イタシテ居リマスル事後承諾ヲ、更ニ法律ヲ以テ加フルコトニ相成リマシテ、此法自身ガ、法律自身ガ憲法ヲ變更スルモノデアアルノデハナイカト云フ疑ヲ生ズル、更ニ又是ハ政府ノ御考ヲ村度イタシマシテ恐縮デアリマスルガ、左様ナ條項ヲ此法案ニ加フルコトガ本案ノ違法性ヲ顯著ナラシムルコトニ相成ル、此理由カラ政府ハ修正ニ御同意ナラナカッタノガ眞意デハナイカト考ヘルノデアリマス、何レニ致シマシテモ議會ニ於キマシテ、衆議院ニ於キマシテ此法案ガ成立イタシマスストスレバ、議會ノ法律ノ審議權、立法權ガ侵犯サレル虞ガアルト云フコトヲ非常ニ心配イタシマシタト云フコトハ、極メテ顯著デアリマス、即チ言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、斯様ナ立法サ憲法ニ違反スルモノデハナイカト云フ疑ヲ持チマシタコトハ、極メテ明カデアリマス、尙ホ議會以外ノ新聞ニ於キマシテモ、先程御紹介申上ゲマシタ如キ報道ヲ致シテ居リマスルノカラ見マスレバ、國民ノ間ニ於キマシテモ、此法案ノ成行ニ付キマシテハ、憂慮イタシテ居ルモノガ尠カラズアルト云フコトハ、想像イタスコトガ出來ルノ

デアリマス、斯様ニ委任命令ハ法律ヲ以テ、法律ガ自ら規定スベキコトノ規定ヲ勅令ニ委任スルモノデハアリマスルガ、元々法律ヲ以テ規定スベキコトガ原則デアッテ、唯例外ノ場合ト致シマシテ、法律ヲ規定スルヨリモ寧ロ之ヲ勅令其他ノ命令ヲシテ規定セシムルコトガ、其法律ニ法規ヲ定メラレタル目的ヲ達スルニ都合ガ好イ、便宜デアルト、斯様ナ場合ニ限リマシテ委任命令ハ認メ得ルモノデナイカト私ハ考ヘル、若シサウデナクッテ、例ハ本法案ノ如ク法律ニハ何等ノ規定ハナイ、本法案ハ先程申上ゲマシタヤウニ第一條ニ於キマシテハ、何等具體的ノ規定ヲ致シテ居ラヌノデアリマス、法規ヲ定メテ居ナイ、サウシテ臣民ノ權利義務ヲ拘束スルガ如キ事項ヲ擧ゲテ勅令ニ委任スルト云フヤウナコトハ、私ハ憲法ノ認ムル所デナイト確信イタシテ居ルノデアリマス、斯様ナ理由ニ依リマシテ、此法案ハ憲法違反デハナイカト云フ疑問ヲ持ッテ居ルノデアリマス、左ニアラズト云フ明瞭ナル御説明ヲ戴クコトヲ希望イタシマス

〔國務大臣松本丞治君演壇ニ登ル〕
 ○國務大臣(松本丞治君) 只今桑山君カラ續々御陳述ガアリマシテ、此法案ハ憲法違反ノ嫌ヒガアル、或ハ憲法違反ノモノデハナイカト云フ御尋ネデアリマシタ、政府ニ於キマシテハ、勿論左様ナ嫌ヒハ寸毫モナイト考ヘテ居リマス、大體ハ先程法制局長官カラ申述べタノデアリマス、只今ノ桑山君ノ御論據ハ第一條ニ種々ノ制限ヲ書イテ

居ル、此制限通りニ行ハレレバ憲法違反デ
モ何デモナイ、併シ此制限ノ「外國ノ執リ又
ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節
シ又ハ通商ヲ擁護スル爲特ニ必要アリト認
ムル」ト云フヤウナコトハ、政府ガ勝手ニ認
定スルノデアアルカラ、依テ書イテア、テモ
無イノト同ジデアアルト云フ御論デアリマシ
テ、此前提ハ私ハ全然間違テ居ルト思フ、
法律ガ明瞭ニ斯ウ云フ條件ヲ定メテ居ル、
政府ガ主觀的ニ假ニ認定ヲ致シマシテモ、
此條件ニ適テ居リマセヌ時ニハ、政府ノヤ
ル所ノ措置ハ誤リデアアル、違法デアリマス、
桑山君ノ御論ハ政府ガ違法ノコトヲヤレ
バ、憲法違反ノ嫌ヒヲ生ズルト云フコト
デ、政府ガ違法ナコトヲヤルト云フコトヲ
前提トシテノ御論デアアル、左様ナコトヲ若
シ申シマスルト、殆ド政府ノ法律ニ於キマ
シテ、政府ノ認定ニ事ヲ委シテ居リマスル
法律ハ、大體ニ於キマシテ違法性ヲ持
テ法律デアルト云ハザルヲ得ナイ、左様ナコ
トハ考フベキコトデアリナイト思フ、若シ
政府ガヤリマシタコトガ此第一條ノ條規ニ反
スルコトヲヤツテ、此處ニ書イテ居リマスル
條件ナキニ拘ラズ條件アリト認メル、任意
ニ左様ノ認定ヲ致シマシタナラバ、ソレハ
政府ノ措置ガ違法ナンデアアル、此法律自體
ガ違憲デアルト云フ問題トハ全然別箇ノコ
トデアルト思フデアリマス、桑山君ハ衆
議院ニ於キマシテ中島君及小川君ノ陳述セ
ラレマシタ所ヲ御朗讀ニナリマシテ、何カ
矢張り違法デアアル、此法律ガ違憲デアルト

云フヤウナコトヲ述ベテ居ルカノヤウニモ
聞ユルヤウニ御話ガアツタヤウニ思ヒマス
ガ、中島君、小川君ハ此法律自體ニハ賛成
シテ居ル、唯事後承諾ト云フヤウナ修正案
ヲ提出シタニ過ギナイ、而シテ此修正案ガ
少數ニシテ破レマシタ後ニ於キマシテハ、
此兩代議士ハ此法律案ニ賛成ヲサレマシ
テ、政友會側カラ出マシタ修正案ニ賛成シ、
其修正ヲ條件トシマシテ此法律案ニ賛成ヲ
サレタ、勿論此法律ガ違憲トカ云フヤウナ
コトハ一ツモ考ヘテ居ラレナカッタコトハ
明瞭デアアルト思フデアリマス、尙ホ政府
ガ此事後承諾案ニ同意シナカッタノハ、此法
案ノ違法性ヲ明カニスル嫌ヒガアル
カラ、承諾シナカッタデアアラウト云フヤ
ウナ御忖度ガアリマシタガ、左様ナコトハ
毫モゴザイマセヌ、事後承諾案ニ同意ノ
出來ナカッタ理由ハ、相當衆議院ノ委
員會等ニ於キマシテ述ベテ居リマス、
其理由ニ外ナラナイ、此法律案ガ違憲デア
ルトカ、違法デアルト云フコトハ夢ニモ考
ヘタコトハナイノデアリマス、要スルニ委
任命令ガ違憲デアアルカドウカト云フヤウナ
學說上ノ色ミノ議論ハアリマスルガ、此法
案ハ從來ノ殊ニ近年ノ委任命令ノ例ニ倣ッ
テ出來テ居ルノデアリマシテ、何等是ト違
フコトハナイノデアリマス、委任命令ノ一
般ニ違法ダ、違憲デアアルカドウカト云フコ
トノ學術的ノ議論ヲ此處デスル必要ハ私ハ
ナイト考ヘテ居ルノデアリマス

○桑山鐵男君 只今ノ御答辯ヲ拜聽イタシ
マシテモ、遺憾ナガラマダ了解ガ出來得ナ
イノデアリマス、尙ホ先ツ申上ゲタイノハ
私ハ委任命令ガ適法デアルトカ、不適法デ
アルトカ云フ學說上ノ議論ヲ致シテ居ルノ
デハアリマセヌ、又委任命令ト云フモノガ
憲法上違法デアアル、違憲デアルト申上ゲテ
居ルノデモアリマセヌ、唯委任命令ノ本質
カラ考ヘマシテ、法規ハ總テ憲法ノ明記ス
ル通り、法律ヲ以テ定ムルト云フコトガ原
則デアアル、其原則ニ例外ヲ作ル場合デアリ
マスルガ故ニ、極メテ制限的ニ、消極的ニ
其範圍ヲ認メナケレバナラヌ、之ヲ勅令ノ
規定ニ委任スルコトガ、其法律ノ定メテ居
リマス法規ノ運用ヲ實際ニ適切ナラシメ得
ル場合等ニ限ルモノデアアル、然ルニ本法案
ハ法律其モノニ於キマシテハ何等法規ニ關
スルコトヲ規定シテ居ナイノデ、法規ニ關
スル事項、即チ臣民ノ權利義務ニ關シマス
事項ヲ擧ゲテ勅令ニ委任イタスコトヲ規定
シヤウト云フモノデアアルガ故ニ、是レ即チ
憲法ノ、法規ハ法律ヲ以テ定ムルト云フ原
則ニ正面衝突スルモノデアリナイカト云フ疑
問ガアルト云フコトヲ申上ゲテ、政府ノ御
說明ヲ請フ次第デアリマス、只今商工大
臣ノ御說明ニ依リマスルト、第一條ニハ場合
ヲ定メテ居ルデハナイカト仰セラレマス、
併ナガラ第一條ヲ拜見イタシマシテモ、先
程私ガ申上ゲマシタヤウニ法規ヲ定メタ
コトハナイ、定メテ居ルト云ヘバ、政府ハ
必要アリト認ムルトキハ勅令ニ定ムル所ニ

依リ期間及物品ヲ指定シ、是レ以下ノ
輸入税ヲ課シ、若ハ輸入税ヲ減免シ、又ハ
輸出若ハ輸入ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ
得ト云フコト、即チ輸入税ノ減免ヲ行ヒ、
輸出入ノ禁止制限モ勅令ヲ以テ勝手ニ定メ
テ宜イト云フコトダケシカナイ、斯様ナコ
トガ臣民ノ權利義務ヲ法律ヲ以テ定メナケ
レバナラヌト云フ憲法ノ規定カラ對照イタ
シマシテ、適法デアアルト見ルカドウカト云
フコトニ付テ疑ヒヲ懷キマスノハ當然デア
ナイカ、斯様ニ考ヘマス、更ニ政府ハ違法
ヲ致サナイ、桑山ハ政府ガ違法ヲ致スト云
フコトヲ前提トシテ左様ナコトヲ述ベル
ガ、政府ハ法律ニ反シタヤウナコトヲ致サ
ナイ、若シ法律ニ反スルヤウナコトガアツ
テラバ、其際ニ之ヲ糾彈シタラ宜イデヤナ
イカ、其際ニ責メタラ宜イデヤナイカ、斯
様ナ仰セガアツカト拜聽イタシタノデア
リマス、成程仰セノ通り政府ハ法律違反ノ
コトヲ爲スベカラザルモノデアリマス、併
ナガラ事實ニ於キマシテハ左様ナコトヲ度
度イタシテ居ル、私甚ダ恐縮デアリマス
レドモ、茲ニ一一ノ例ヲ擧ゲルコトヲ御許
シ戴キタイ、先程法制局長官ニ私ガ確カメ
マシタ通り、斯様ナ臣民ノ權利義務ニ關ス
ル事項ハ、憲法第九條ノ規定ニ依テ出ス勅
令命令ヲ以テハ規定シ得ナイガ故ニ、此手
續ヲ取ラレルノデアルト了解イタシマスガ
如何デゴザイマスカト、今日御尋ネ致シタ
ニ對シマシテ、法制局長官ハ其通りデア
ルト御答辯ガゴザイマシタ、所ガ是ハ現内閣

ニ限リマセヌガ、現内閣ニ於キマシテモ昭和八年六月一日、或省ノ省令ヲ以チマシテ、或物ノ輸出ヲ禁止イタシテ居リマス、是ハ法制局長官ノ御見解ニ依リマシテモ、違法ノコトヲ致シテ居ルモノ、違憲ノコトヲ致シテ居ルモノデアル、何等基ク根據ナクシテ、法規ノ根據ナクシテ、九條ニ依ル命令ヲ以チマシテ輸出ノ禁止ヲ致シテ居リマス、是レ政府ガ違法ノコトヲ致スコトガアル一例デアリマス、更ニ御承知ノ通り最早會期モ切迫イタシマシテ、此二十五日ニ終ラウト云フ今日ニ當リマシテ、斯様な法案ガ續々ト提案サレテ居リマス、若シ政府デ眞ニ議會ノ協賛ヲ求メ、議會ノ審議ヲ請ハウト云フ御考ガアリマシタナラバ、何ガ故ニモット早イ以前ニ於キマシテ法案ヲ御提出ニナラナイカ、斯ノ如キハ法ノ明文ニハ反シマセヌガ、精神ニハ明瞭ニ背反シテ居ル措置デナカラウカト思フノデアリマス、斯様ニ考ヘテ見マスト、私共只今ノ商工大臣ノ御説ニ從ツテ、政府ハ開議ヲコトヤラナイ、斯様ニ信ジタイノデハアリマスガ、不法ノコトハ往々ニシテヤルノデアリマス、故ニ斯ノ如キ空漠タル、又廣大ナル權限ヲ政府ニ、勅令ニ委任イタシマシテ法規ヲ定メシムルト云フコトハ極メテ危険デアアル、其事自體ガ憲法ノ認メナイ所デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、私ハ此事ニ付キマシテ更ニ御伺ヒ致シタイト考ヘマスガ、總理大臣ガ御出席ガアリマセヌ故ニ、總理大臣ニ伺フベキ一ツノ質問

ハ、是ハ他日若シ議會ヲ得マシタナラバ御伺ヒスルコトニ致シマシテ、之ヲ以テ私ノ本日ノ質問ヲ終ルコトニ致シタイト思ヒマス

(國務大臣松本素治君演壇ニ登ル)

○國務大臣(松本素治君) 只今桑山君ハ答辯ヲ御要求ニナリマセヌ、答辯トシテ別ニ申上ゲルコトモアリマセヌ、唯何等カ輸出ノ制限ニ關スル省令ガアル、是ハ違法デアルト云フヤウナ御話ガアリマシタカラ、然ラザル所以ヲ一言イタシマス、是ハ憲法第九條ノ命令デ勿論違法デナイ、サウ云フ例ハ幾ラモアリマス、然ラバ本法案ノ第一條ニ於キマシテ、輸出輸入ノ禁止若クハ制限ヲ爲スコトヲ得ト、何方故ニ書イテ居ルカト云フ御反問ガアルカモ知レマセヌガ、是ハ御覽ノ通り第三條ニ於キマシテ重イ刑罰ノ制裁ガアリマス、斯様な制裁ヲ附シテ、輸出輸入等ノ禁止制限ヲ省令デ若シ致シテ居レバ是ハ違法デアリマス、併シ左様ナ省令ハ何處ニモ私ハ無イ、從來ト雖モ無カッタト思ヒマス、ソレダケノコトヲ、御答デハアリマセヌガ御斷リヲ申上ゲテ置キマス

○桑山鐵勇君 只今ノ御説明ハ私トシテハ満足出來マセヌ、ガ併シ此以上時間ヲ費シマスコトハ甚ダ恐縮デアリマスルガ故ニ、此際御尋ね致スコトハ見合ハスコトニ致シマスガ、明カニ憲法違反ノ省令ガアル、又商工大臣ハ何方故ニ違反デナイカト云フコトヲ仰セラレナイ、唯先例ガアル、左様ナ先

例ハ即チ皆政府ガ憲法違反、法律違反ヲスルコトガアルト云フコトヲ物語ルモノデアリマシテ、寧ろ私ノ論據ヲ強メルモノデハナイカト考ヘルノデアリマス、之ヲ以テ終リト致シマス

○議長(公野近衛文麿君) 只今函館市ノ大火ニ關シテ政府ヨリ發言ノ要求ガゴザイマシタ、時間ノ都合上、只今此發言ヲ許シタイト存ジマスガ、マダ各大臣ガ御見エニナツテ居リマセヌ、暫ク御待チテ願ヒマス

○上山滿之進君 議事進行ニ付テ申上ゲマス、誰ヲ待ツテ居ルカ存ジマセヌガ、唯徒ニ休ンデ居ルト云フコトハ誠ニ此際残念ニ存ジマスカラ、大臣ガ出ラレルマデ一ツ他ノ議事ヲオヤリニナツテ、サウシテ大臣ガ出ラレタ時、議事ガ半バデアラナラバ、大臣ニ待ツテ貫ツタラ如何カト思ヒマス

○議長(公野近衛文麿君) 只今直ク見エルサウデス

(國務大臣男爵山本達雄君演壇ニ登ル)
○國務大臣(男爵山本達雄君) 私ハ函館ノ大火ニ付キマシテ御報告ヲ申上ゲマス、昨夜函館ニ發生イタシマシタ大火ニ付キマシテ、只今マデ報告ニ接シマシタ概要ヲ申上ゲマス、火災ハ昨二十一日午後六時半頃、函館市谷地頭町ヨリ出火イタシ、折柄ノ東南、秒速十八「メートル」餘ノ烈風ニ煽ラレマシテ忽チ燃エ擴ガリ、且ツ數箇所ニ飛火イタシマシテ、消防隊ノ決死ノ努力モ空シク、市ノ殆ド大半ヲ焼失イタシマシタ、燒

失戸數ハ詳細ハ未ダ判明イタシマセヌガ、約二萬戸ニ上ボル模様デアリマス、又人ノ死傷ニ付キマシテハ、何分當時ノ通信機關ガ杜絶セル爲メ、其詳細ヲ知ルコトガ出來マセヌガ、相當多數ニ上ボツテ居ル見込デアリマス、尙ホ火災ハ今朝ニ至リ漸ク鎮火シタ模様デアリマス、消防救護ノ狀況ヲ申上ゲマス、大火ノ報ニ接シマスルヤ、北海道廳警察部ヨリハ直ニ其隣接警察署長ニ對シ、警察官及消防組員ノ救援ヲ命ジマシテ、一方、第七師團トモ協議シ、地元警察署員、消防組員ト共ニ協力警戒防禦ニ努メツツアリマスノデアリマス、又更ニ、北海道廳管下各警察署ヨリモ、ソレノ應急救護ノ物資ヲ本日ノ一番列車ニ依リマシテ、災害地ニ發送イタシマシテ、遺憾ナキヲ期シツツアル次第デゴザイマス、内務省ニ於キマシテハ火災ノ報ニ接シマスルト共ニ、警戒及救護ニ對シマスル各般ノ手配ヲ執リツツアリマスルガ、取敢ズ警戒及救護狀況調査ノ爲メ、警保局ヨリ事務官、衛生局ヨリ防疫官、社會局ヨリ社會部長ヲ現狀ニ派遣イタシマスルコトニ手配ヲシテ居リマス、一方、社會局ヲシテ防寒外套、食糧、醫療救護品、「バラック」材料等ノ救護物品、並ニ災害復興物資ノ送付計畫ヲ樹立シ、軍部當局トモ協力シテ、罹災民ノ救護ニ努力セシメテ居ル次第デアリマス、右御報告ヲ申上ゲマス

(國務大臣林銑十郎君演壇ニ登ル)
○國務大臣(林銑十郎君) 函館大火ニ關シマシテ、陸軍ノ執ツテ居リマスル處置ノ概略

ハ、是ハ他日若シ議會ヲ得マシタナラバ御伺ヒスルコトニ致シマシテ、之ヲ以テ私ノ本日ノ質問ヲ終ルコトニ致シタイト思ヒマス

ヲ御報告イタシマス、函館ニ在リマスル重砲兵大隊ハ取敢ズ應急ノ救護ニ當テ居リマシテ、尙ホ第七師團ノ留守司令官ハ、旭川並ニ札幌カラ工兵ト衛生部員ヲ急派イタシマシテ救護ニ任ジテ居リマス、其外物糧トシマシテハ、毛布ヲ九千枚、堅パン五百箱、罐詰肉三百箱ヲ取敢ズ罹災地ニ向テ急送シタト云フコトデアリマス、又出征軍人ノ家族、戦死者ノ遺族、並ニ傷痍軍人等ニ對シマシテ、取敢ズ救護上遺憾ナキヲ期スル爲メ、此方カラ將校ノ派遣モ致シマシタシ、又現地ニ於テ只今極力是等ノ救護、救恤ニ當テ居ルト云フコトデアリマス、其外航空機ノ派遣ヲ企圖イタシマシタガ、現地積雪ノ爲ニ俄ニ是ハ實施シ難イ状態ニ在ルト云フコトデゴザイマス、取敢ズ是ダケ御報告イタシテ置キマス

〔國務大臣大角岑生君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(大角岑生君) 函館ノ大火ニ付キマシテハ、誠ニ同情ニ堪ヘナイ次第デアリマスルガ、海軍側トシテハマダ情報ニ接シテ居リマセズ、取敢ズ大湊ニ居リマス所ノ驅逐艦四隻ヲ急派イタシマシテ、毛布三千枚、下士官兵ノ軍服千着、其他靴、靴下「ビスケット」、罐詰類ソレヲ持テ出動イタサセマシタ、尙ホ大湊ノ航空隊ニモ狀況視察ノ爲ニ出動ヲ命ジテ居リマスガ、ソレヨリモマダ報告ガ參ッテ居リマセズ、尙ホ大湊ノ貯藏品ハ出來ルダケ直ニ供給ヲ命ジタノデアリマスルガ、今朝横須賀ノ軍需部ニ命令イタシマシテ、更ニ「ビスケット」類五噸半、罐詰類三噸

半、毛布六千枚、其他軍服トカ、外套トカ云フモノヲ準備シテ、今日中ニ輸送ノ手續ヲ終ル次第デアリマス、尙ホ情報ヲ得マシテ、海軍ノ助力ヲ必要トスルナラバ、出來ルダケ之ニ應ジタイ考ヘデ居リマス

○議長(公爵近衛文麿君) 次ハ通告順ニ依リマシテ、赤池君ノ發言ヲ許ス管デアリマスガ、既ニ時間モ切迫イタシテ居リマスカラ、且ツ赤池君ノ御發言ハ相當ニ時間ヲ要スルサウデアリマスカラ、是ニテ休憩ヲ致シマス、午後ハ一時三十分ヨリ開會イタシマス

午前十一時四十三分休憩
午後一時四十三分開會
午後一時四十三分開會

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス
〔酒井書記官朗讀〕
本日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
原蠶種管理法案可決報告書
輸出水産物取締法案可決報告書
農會法中改正法律案可決報告書

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス、本日出民義君ヨリ都合ニ依リ、輸出組合法中改正法律案ノ特別委員ノ辭任ノ申出ガゴザイマシタ、許可ヲスルコトニ御異議、ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、下出君ノ補闕トシマシテ桑山鐵男君ヲ指名イタシマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 通告順ニ依リマシテ發言ヲ許シマス、赤池君
〔赤池君演壇ニ登ル〕
○赤池君 私ハ本案ニ付キマシテ總理大臣ニ、政府ノ所見ヲ御尋ネシタイト思ッテ居ル者デアリマスガ、御差支ガアッテ出席ガ出來ナイサウデアリマスガ、私ハ斯ノ如キ重大ナ問題ニ付キマシテハ、直グ此際政府委員カラ御答辯ト云フコトヨリハ、手間ガ取レテモ速記録ヲ御覽ニナツテカラシテ、後ニ總理ノ御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、本法案ハ題シテ貿易調節通商擁護ト銘ヲ打ッテアリマシテ、其名カラシテ既ニ其案ノ重大ナコトヲ豫想サセルノデアリマス、而シテ其内容ヲ見マスト云フト、我國ノ通商貿易ヲ擁護スル爲ニ、通商貿易ヲ擧ゲテ政府ノ統制ノ下ニ置クト云フコトデアリマシテ、即チ十八世紀以來ノ通商貿易ハ自由デアルト云フ主義ヲ、根柢カラシテ覆サユウナ風ナ大修正ヲ加ヘテアルモノデアリマス、又相手方ノ外國ノ政府ノ措置如何ニ依ッテハ、關稅ヲ附加シ、或ハ減免シテ、ソレニ對應スル適當ノ措置ヲ講ズルト云フコトデアリマシテ、從來ノ關稅互惠ノ主義ヲ廢シタノデアリマシテ、俗ニ謂フ國際貿易戰ヲ開始スル準備ガアルコトヲ示シタモノデアリマシテ、即チ我國ニ取リマシテハ、劃期的ナ行政ト申シマセウカ、從來ノ主義精神ヲ非常ニ改メタモノデアリマシテ、實ニ重要ナ法案デアリマシマス、斯カル重

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

要ナ法案ヲ議スル際ニ於キマシテハ、十分ニ時間ヲ藉シテ慎重審議シナケレバナラナイノデアリマスガ、會期迫ッテ今日ニ於テ、斯ノ如キ提案ヲ見ルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ甚ダ政府ノ態度ニ付キマシテモ、遺憾ノ念ヲ禁ズル能ハザルモノデアリマス、併シ兎ニ角議員トシテハ最善ノ努力ヲ以テ、此案ノ審查ニ從事シナケレバナラスノハ勿論デアリマシテ、其意味ニ於キマシテ私ハ二ツノ質問ヲ政府ニ致シタイノデアリマス、即チ第一ハ政府ハ本案ノ提出ヲ以テ、此法案ヲ以テ通商ノ擁護ガ完全ニ出來ルト思ハレルノデアリカ、モウ少シ詳シク申シマシタナラバ、此案ニ對シテ何カ相當ノ準備ガアル、又相當ナ工作ヲシテ、サウシテ此案ヲ出サレタノデアリカ、唯漫然ト案ヲ出シテ、サウシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フコトヲ圖ラレルノデアリカ、其點ヲ承リタイノデアリマス、此意味ニ於キマシテ三ツノ點ニ細分イタシマシテ、御所見ノ點ヲ承知シタイデアリマス、即チ其一ハ、此法案ヲ見マスト云フト、政府ノ眼ハ、外國ノ政府ガ執リ又ハ執ラントスル措置ニ對應シテ貿易ヲ調節シ、又ハ通商ヲ擁護スルト云フノデアリマシテ、主トシテ其眼ハ外國ノ政府ニ向テ居ルノデアリマス、私ガ御聽キシタイノハ、外國ノ政府ガ或ハ關稅ヲ引上ゲ、或ハ輸入割當額ヲ制限シ、或ハ支拂金ヲ制限スルヤウナ風ノコトヲ致シテ居リマスガ、其外ニ於テ外國ノ國民ガ國民トシテ我國ノ通商貿易ニ對シ

テ或工作ヲシテ居ルノデアリマスルガ、ソ
レヲドウ御覽ニナツテ、サウシテ此案ヲ出サ
レタカト云フコトヲ聽キタイノデアリマ
ス、今回ノ日英會商ノ經過ノ跡ヲ見テ見マ
シテモ分リマス如ク、英吉利ノ政府當局者
ハ、寧ロ「ランカシャー」ノ當業者ニ對シテ
相當勸告モシ、決意モシテ居ルヤウニ見エ
ルノデアリマス、併ナガラ「ランカシャー」
ノ當業者ハ、非常ナ權幕ヲ以テ我國ニ當ッテ
參リマシテ、「コムミニケ」ニモ現ハレテ
居ルガ如ク、我國ノ世界ニ於ケル市場ヲ制
限スルトカ、我國ノ貿易ノ有様ヲ昔ノ状態
ニ引戻ストカ何トカ云フヤウナ風ノ、隨分
理不盡ナ要求ヲシテ居リマシテ、而モソレ
ニ應ジナカッタナラバ、世界ノ共同ノ敵ト
シテ我ヲ遇スルト云フヤウナ風ナコトモ申
シテ居ルノデアリマス、即チ政府當局者ヨ
リハ民間ノ方ノ勢ヒト云フモノガ甚ダ盛デ
アルト云フコトヲ思ハセルノデアリマス、
又佛蘭西ノ狀況ヲ見テ見マシテモ、佛蘭西
ノ政府ノ今日マデ執ッテ居リマス所ノ對策
ト申シマスモノハ、マダソレ程ヒドイ
モノデハアリマセヌガ、「リオン」ノ商業會
議所ノ會頭ハ、日本ノ商品ノ進出ニ對シテ、
我々ハ袖手傍觀スルコトガ出來ナイ、之ガ
爲ニ我々ノ内外ノ市場ガ攪亂サレテ居ルノ
ダト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマシ
テ、即チ民間ノ鼻息ガ頗ル強イノデアリマ
ス、デスノ如ク政府ノ當局者ヨリハ、民間
ノ氣勢ト云フモノガ甚ダ揚ッテ居ル際ニ於
キマシテ、我が政府ハ唯政府ヲ相手トシテ

ノミ此案ヲ作ッテ、所謂貿易戰爭ノ準備ヲ
スルコトガ出來ルデアリマセウカドウカ、
モウ少シ外國ノ國民ノ狀況ト云フモノヲ眼
中ニ入レテ、サウシテ對策ヲ講ジナイデ
宜イノデアリマセウカト云フコトヲ先ツ承
リタイノデアリマス、私ハ茲ニ不快ノ例ヲ
擧ゲルノデアリマセヌケレドモ、如何ニ
外國民ガ或ハ合法的ノ名前ノ下ニ隠レテ、
サウシテ我國ノ商品ノ輸入ヲ防遏シテ居ル
カト云フコトヲ甚ダ遺憾トスルモノデアリ
マシテ、其一例ハ亞米利加ニ於ケル電球問
題ニ付テモ現ハレテ居ルノデアリマス、御
承知ノ如ク我國ノ電球ガ最近非常ナ勢ヲ以
テ亞米利加ニ進出イタシマス云フト、彼
「ジー・イー」會社ハ特許侵害ヲ以テ我方商
人ニ向ッテ大迫害ヲ加ヘタノデアリマス、ド
ウ云フ風ノ迫害ヲ加ヘタカト云フコトヲ申
シマスレバ、第一ハ訴訟ヲ起シマシテ、其訴
訟タル、鐵條ニ關スル特許、瓦斯入ニ關ス
ル特許、排氣管ニ關スル特許、内面艶球ニ
關スル特許ヲ我國ノ商品ハ侵害シテ居ルモ
ノデアルカラ之ヲ防ガナケレバナラヌト云
フ訴訟デアリマス、此訴訟ヲ提起スルト同
時ニ、彼地ニ於キマシテハ盛ニ我が商品ヲ
取扱フモノニ向ッテ迫害ヲ加ヘ、脅迫の所業
ヲ以テ迫害ヲ加ヘタノデアリマシテ、即チ、
オ前達ハ特許侵害ノ商品ヲ輸入シテ居ルカ
ラ、將來怖ロシイゾト云フヤウナコトヲ
云ッテ居ル、而モ其際ニ於キマシテハ、後日
證書ガ物ヲ言ッテハナラヌト云フ譯デ以テ、
大體口頭ヲ以テ大イニ脅迫シタノデアリマ

シテ、之ガ爲ニ我國ノ商品ヲ取扱フ所ノ内
外ノ店ハ、多クハ商品ヲ拒絶イタシマシ
テ、賣捌キヲ中止シタノデアリマシタ、故
ニ非常ナ勢ヲ以テ亞米利加ヘ進出シタ所ノ
電球ガ、俄ニ販路ヲ失シテシマッタト云フコ
トガアルノデアリマシテ、此際此不法ノ侵
害ニ對シテハドウシテモ等ハナケレバナラ
ヌト云フ決心ヲ以テ最後マデ戦ヒマシテ、
殊ニ訴訟ニ應ジマシタノハ僅ニ日本人二人
アルノミデアリマシタ、元來是等ノ鐵條ニ
關スル特許デアルトカ、若ハ瓦斯入ニ關ス
ル特許ノ如キモノハ、日本ニ於キマシテハ
既ニ特許タルノ資格ヲ失ッテ居ルモノデア
リマス、又商品ト致シマシテハ殆ド特許ノ
資格ガナイモノデアアルニモ拘ラズ、左様ナ
コトヲ申立テテ、而モ其勢ノ激スル所、豆
電燈ノ如キモノモ尙且特許侵害デアルカノ
如キ誤解ヲ起シマシテ、サウシテソレ等ノ
物ノ輸入マデ非常ニ制限ヲ受ケタト云ウヤ
ウナ狀況デアアルノデアリマシテ、此際ニ於キマ
シテ、我國ニ於テハ、某法學博士、其博士ガ非
常ニ憤慨ヲシテ、學問上サウ云フヤウナ風ノ
特許權侵害ハアリ得ナイト云フコトヲ以テ、
非常ニ該博ナ知識ヲ傾ケ、當業者ニ參考ト
シテ送リマシテ、サウシテ應訴セシメマシ
テ、現今ニ於テハ此訴訟ガ有利ニ開展シテ
居ル狀況デアアルノデアリマス、私共ハ此二
人ノ人ノ名前ハ茲ニ憚リマセヌケレドモ、眞
ニ彼等ノ人ガ獻身の努力ヲシテ、悲壯ノ
覺悟ヲ以テ此事ニ當ッタト云フコトニ付キ
マシテハ感謝セザルヲ得ナイノデアリマス、

左様ナ情勢ガ今日亞米利加ニ於テ行ハレテ
居ルノデアリマス、是ハ亞米利加ニ於テ行
ハレル狀況デアアルノデアリマセヌケレドモ、
斯ノ如キ自分ノ特權ヲ利用シ、若ハ特殊ノ
地位ヲ利用シマシテ、我國ノ商品、彼等ノ
競争品タル商品ニ向ッテ迫害ヲ加ヘテ居ル
コトハ、彼地ニ於テノミナラズ、我方内地
ニ於テモ常ニ行ハレタノデアリマシテ、殊
ニ電球事業ニ向ッテハ其通りデアリマシテ、
其昔林文次郎ノ如キモノハ、是等ノコトニ
付キマシテ、日本ノ特許局ニ於テ大イニ争
ヒラシテ、ソレヲ以テ遂ニ主張ヲ通シタノ
デアリマシテ、此主張ガ通ッテ爲ニ、我國ノ
電球事業ト云フモノハ俄然トシテ發達イタ
シマシテ、獨リ内地ノ要求ヲ全ウスルノミ
ナラズ、外國ニ向ッテ輸出スルヤウナ風ノ
情勢ニナッタノデアリマス、即チ外國ノ人ガ
政府ノ手ヲ離レテ、所謂民間工作トシテ、
サウシテ我國ノ商品ニ對シテ相當ノ或種ノ
方法ヲ講ジテ居ルト云フコトヲ我々ミハ忘レ
テハナラナイノデアリマシテ、今後ニ於キ
マシテモ、左様ナ事態ガ發生シナイト云フ
コトハ私ハ保證ガ出來ナイダラウト思ヒマ
ス、斯ノ如キ状態ニ對シマシテ、政府ハド
ウ云フ御考ヲ持ッテ居ラレドデアリマセウ
カ、斯ウ云フコトヲ眼中ニ置テ、サウシテ
適當ノ方策ヲ御考ヘニナツテ居ルカ、サウシ
テ此法文ノ如ク外國政府ニ向ッテ措置ヲ講
ゼラレテ居ルデアリマセウカドウデアリマ
セウカ、即チ裏面ノ工作ヲ十分サレ、色ミ
ノ發生スベキ狀況ヲ豫想サレテ此法案ガ出

テ居ルノデアリマスカ、唯此法案ヲ出シタ
ナラバソレデ通商ノ擁護ガ出來ルト云フヤ
ウナ單純ナ御考デアリマセウカ、其點ヲ先
ツ伺ヒタイノデアリマス、其次ニ御尋ネシ
タイノハ、此法案ニ示サレテ居ル如ク、政
府ノ眼ハ、外國ノ政府、外國ノ政策ニ向ッテ
注ガレテ居ルノデアリマスガ、我國ノ産業
状態ニ向ッテ如何ナル注意ヲ拂ッテ、考慮サ
レテ居ルノデアルカ、其點ヲ伺ヒタイノデ
アリマス、即チ此形ノ上ニ於キマシタナラ
バ、外國政府ガ關稅ヲ高メルトカ何トカシ
タナラバ、之ニ對シテコトヲモ對應スル處
置ヲ執ルト、斯ウ云フ風ナ情勢デアルノデ
アリマスケレドモ、情テ其所謂貿易戰ト云
フコトヲヤルニ付キマシテ、顧ミテ我國ノ
産業状態ガ其戰爭ヲ爲スニ十分デアルヤウ
ナ風ナ備ヘ立ガ出來テ居ルカドウカ、一旦
不幸ニシテ戰爭ヲ開始シタ場合ニ於キマシ
テ、貿易戰ヲセラレタ場合ニ於キマシテ、
果シテ後顧ノ慮ガナイヤウナ風ニ整頓サレ
テ居ルカドウカ、モウ少シ具體的ニ申上ゲ
マシタナラバ、外國カラシテ我方産業ヲ攪
亂スルト云フ所ノ處置ヲ執ツタ時分ニ於テ、
ソレニ乗ゼラレル虞ガナイカト云フコトヲ
承リタイノデアリマス、私ハ斯ノ如キ不愉
快ナルコトヲ御尋スルノハ外デモナイノデ
アリマス、今日ニ於キマシテ我商品ハ非常
ナ勢ヲ以テ海外ニ進出イタシマシテ、之ガ
爲ニ西洋諸國カラ見マスルト云フト、自國
ノ市場ヲ奪ハレタカ、或ハ自國ノ商業ガ
衰ヘタトカ、之ガ爲ニ自分ノ工場ハ縮小ス

ルトカ、或ハ閉鎖スルトカ、失業ガ多イ
トカ、斯ウ云フコトヲ申シテ居リマシテ、
サウシテ今日ニ於キマシテハ日本ノ商品ヲ
共同ノ力ヲ以テ防禦シナケレバ、ナラナイ
ト、斯ウ云フ風ナコトヲ申シテ居リマス、
而モ是ガ生活問題ダカラ、人道問題ダカ
ラト云フ所ノ聲ヲ以テ向ッテ居ル今日デ
アルノデアリマス、生活ヲ脅スモノデ
アル、人道ノ問題デアルト云フコトヲ考
ヘテ居リマス以上ト云フモノハ、餘程
激烈ナル手段方法ヲ講ジテ、サウシテ
我國ノ商品ニ向ッテ或種ノ工作ヲスルト云
フコトハ、我ニハ豫想シナケレバナラヌ
ト思フノデアリマス、私ガ豫想スルヤウナ
事態ガ發生シナケレバ、是ハ實ニ國家ノ幸
福デアルノデアリマス、私ハ斯ノ如キ事態
ガ發生セザルコトヲ切望シテ止マナイ者デ
アリマスケレドモ、併シ希望ハ希望ト致シ
マシテ、果シテソレガ起リナイノデアルト
云フコトヲ誰ガ保證出來ルノデアリマセウ
カ、私ハ西洋歴史ヲ見マシテカラシテ、所
謂市場爭奪戰ガ如何ナル方法ヲ以テ行ハレ
テ居ルカ、合法、非合法、有ユル方法ヲ以
テ行ハレテ居ルヤウナ所ノ狀況ヲ深ク遺憾
トスル者デアリマシテ、同時ニ今日ノ現狀
ニ付キマシテ見マシテ、ドウ云フコトヲ外
國人ガスルドラウカト云フコトモ、自ラ考
ヘザルヲ得ナイノデアアルノデアリマス、私
共ハ出來得ル限り貿易戰ヲ避ケタイト云フ
コトヲ切望イタシマス、併シ同時ニ戰ヒラ
好ム者ハ破レルガ、戰ヒラ忘レル者モ矢張

リ破レル、滅ビルト云フコトガ古語ニモア
リマス通りデアリマシテ、我ニハ貿易戰ノ
起ラザルコトヲ希望スルト同時ニ、一朝是
ガ發生スル虞ガアルト云フコトヲ忘レテハ
ナラヌト思フノデアリマス、ソレニ對スル
準備ヲ心得テ居ラナカッタナラバ、不測ノ損
害ガ見舞テ來ルドラウト云フコトヲ慮レ
ル者デアアルノデアリマス、此意味ニ於キマ
シテ、將來深刻ニ貿易戰ガ行ハレル場合ニ
ハドシナコトガアルドラウカ、我方産業ヲ
ドウ云フ風ニスルドラウカト云フコトヲ相
當考慮ノ中ニ入レル必要ガアルト思フノデ
アリマス、即チ正當ナラザル所ノ方法、明
朗ナラザル、朗カデナイ所ノ方法ヲ以テ彼
等ガ接シテ來ル時分ニ於キマシテハ、我ガ
産業ヲ攪亂スルト云フコトガ其ノ一手デア
ラウト思フノデアリマス、我ガ産業ヲ攪亂
スルニ付キマシテハ、或ハ資本關係ヲ以テ
シ、或ハ勞働關係ヲ以テスルト云フコトヲ
考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、私ハ是ガ
必然起ルモノトハ申シマセヌ、併ナガラ起
リ得ル懸念ガアルト云フコトヲ我ニハ忘レ
テハナラナイ爲ニ此事ヲ申スノデアリマ
ス、資本關係ヲ以テ來マス時ニ於テハドウ
カ、資本ハ元來愛國心ガナイモノデアリマ
シテ、要スルニ有利ナモノニ向ッテ動くモ
ノデアアルノデアリマス、而モ往々ニシテ人
ノ愛國心ヲ惑スコトガアルモノデアリマ
ス、此意味ニ於キマシテカラシテ、外國ノ
資本ニ依ッテ我國ノ産業ガドウ云フ攪亂サ
レル虞レガアルカ、又我國ニ於テハ斯ノ如

キコトハ決シテ無イト、斯ウ云フコトヲ斷
言シ得ルマデニ整頓シテ居ルカドウカ、是
等ノコトヲ我ニハ相當ノ注意ヲ以テ考ヘナ
ケレバナラヌト思フノデアリマス、私ハ過
去ニ於テ隨分或會社ガ日本ニ於テ惡辣ナ手
段ヲ執ツタコトヲ知ッテ居ル者デアアルノデア
リマス、又其會社ガ多大ノ廣告費ヲ出シテ
居ル爲ニ、我國ノ新聞紙ニ於テモ其會社ノ
コトニ付テハ之ヲ掲載シナイ、不利益ノコ
トヲ掲載シナイト云フ所ノ狀況モ知ッテ居
ルノデアリマシテ、之ガ爲ニ昨年ノ如キハ
或團體ト新聞社トノ間ニ於テ或葛藤ヲ起シ
タヤウナ次第デアアルノデアリマス、斯ノ如
キ狀況ガ現ニアルコトヲ思ヒマスルト云フ
ト、將來ニ於テモ斯ノ如キコトハ絶無デア
トハ保セラレナイイダラウト思フ、誰カ又斯
ノ如キコトガナイト保證スルコトガ出來マ
セウカ、又日印會商ノ跡ヲ見テ居リマシテ
モ、隨分遺憾トシタ點モアルノデアリマシ
テ、此點ニ付キマシテハ深く當業者ノ反省
ヲ促シタイ點モアルノデアリマシテ、斯様
ナコトデアリマシテ、資本關係ト云フモノ
ラシテ、我方産業ガドウサレルドラウト云
フコトモ、一應ハ考ヘテ置カナケレバナラ
ヌモノドラウト思ヒマス、萬ナイト云フコ
トヲ承知イタシマスルケレドモ、アリ得ル
ト云フコトモ、又其場合ニ對シテハドウ云
フ風ニシテ、我ニハ産業ヲ保護スルカト云
フコトモ考ヘル必要ガアルト思フノデア
リマス、第二ニハ勞働界ニ向ッテドウ
云フヤウナ風ノ攪亂策ヲ講ズルカト云

フコトヲ懸念スル者デアリマス、私ハ今日ノ状態ヲ見マスルト云フト、如何ニモ我が産業界ハ良イ所ノ情勢ニアルト思フノデアリマス、即チ數年前ニ於テ勞働爭議ニ現ハレマシタ所ノヤウナ風ノ、勞働者ニ反國家的ノ色彩ハトシト見エマセヌノデアリマス、又資本家モ大イニ恩顧若クハ社會ノ恩ト云フコトニ感ジテ奉仕ノ態度ヲ以テ、社會ニ奉仕ノ態度ヲ以テ色ミノコトヲヤツテ居ルノヲ見マシテ、我が産業界ハ非常ナ順調ナ進ミ方ヲ居テ、先ヅ、イヤナ噂モ聞カズ、イヤナ騒ギモノイノヲ見マシテカラシテ、非常ニ喜ンデ居ル者デアリマス、斯ノ如キ状況デ以テ進ミマシタナラバ、何等懸念ハナイノデアリマスルケレドモ、唯不幸ニシテ貿易戰ガ起ツタ時分ニ於キマシテ、向フノ希望、相手方ト致シマシテハ如何ニスレバ日本産業ヲ衰ハサセ、衰滅サセルカト斯ウ云フヤウナコトニ付テ、有ユル計畫ヲ廻ラシテ、サウシテヤツテ來マシタ時分ニ於テ、我國ノ此今日ノ状態ト云フモノガ、攪亂サレナクテ済ムダラウカドウダラウカト云フコトヲ、懸念スル一人デアアルノデアリマス、今日ノ産業界ノ状況ハ種々ナル意味カラシテ斯ノ如キ良好ノ状況ヲ呈シタト思フノデアリマスガ、或意味カラ申シマスレバ、時局ノ重壓ト云フコトモ其一因デハナイカト思フ、國民ノ覺醒ト云フコトガ最大原因デアリマスルケレドモ、尙ホ時局ノ重壓ト云フコトモアルノデアリマセウシ、同時ニ曩ニ不逞ノ思想ヲ持

テ居ツタ所ノ人ト云フモノガ一時屏息シ、休戰状態ニ居ルノデハナイカト云フコトモ、窺ハレルモノガ無いデモナイノデアリマス、斯ノ如キ想像ハシタクナイノデアリマスケレドモ、左様ナコトモ亦相當考慮シナケレバナラスコトカト思フノデアリマス、左様ナ場合ニ於キマシテ、從來ノ緣故ヲ辿テ我國ノ勞働界ニ向ツテ、或種ノ魔手ガ、魔ノ手ガ動カナイト云フコトヲ保證シ得ナイヤウナ風ノ感ガ致スノデアリマス、左様ナ間隙ガナイヤウニ、此際我が産業状態ヲ極ク整頓シ、嚴重ニ防禦スルト云フコトハ非常ニ急務デアルト思フノデアリマスルガ、今日政府ハソレ等ノ準備ヲサレテ居ツテ、何時デモ我國ノ内部ト云フモノハ確カデアツテ、ドンナ戰爭デモ後顧ノ憂ガナクシテ應ジ得ルト云フ確信ヲ御持チニナツテ居ルカドウカ、左様ナ確信ノ下ニ於テ此法案ヲ出シテ、所謂表向キニ外國政府ト適當ナ處置ヲ講ズルヤウニサレテ居ルカ、サウ云フ風ナ裏ノ工作ガナク、唯漫然ト此法案ヲ出シニナツタノデアアルカ、其點ニ付テ御所見ヲ承リタインデアリマス、第三ニ付テハ、本案ヲ見マスルト云フト、主トシテ販賣ノ統制ノ方ニ力ガ注イデアアルノデアリマシテ、生産ヲ統制スルト云フコトニ付テハトシト見エナイノデアリマス、ガ併シ政府ハ需要供給ノ關係ヲ能ク見テ居ルノデナケレバ、販賣統制、貿易戰ノ準備ガ出來ナイト云フコトヲ御承知ノ上ニ於テ、其事ハ先刻御承知デ、十分心得テ居ルト云フコトノ下ニ於テ、唯

販賣ノ方面ダケヲ御規定ニナツタノデアアルカ、サウ云フ風ナ生産ト販賣トノ状況ヲ打ツテ一丸トシテ、達觀シテ居ツテ、サウシテ能ク考慮サレテ居ルノデアアルカ、サウデナイノデアアルカ、其點ヲ私伺ヒタイノデアリマス、貿易ノ調節ト申シマスコトト云フモノハ、唯販賣先ヲ注意スル、出先ダケヲ處置スルト云フコトデ以テ、完全ニ效果ヲ收メルコトノ出來ナイノハ言フ迄モナイ話デアリマス、生産者ガ無闇ニ必要以上ノモノヲ生産スル場合デアツタナラバ、是ハドウナルデアリマセウ、ソレ等ノ點ヲ十分ニ考慮ノ中ニ入レテ居ツテ、サウシテ産業ヲ統制スル考ヲ以テ此貿易ヲ統制サレ、貿易ヲ擁護サレルノデアアルカ、私ハ政府ノ用意ノアル點ヲ承ハリタイノデアリマス、以上ハ第一問トシテ御尋ネシタイコトヲ細分シテ申上ゲタノデアリマシタ、第二ニ御尋ネシタイノハ、政府ハ此法案ヲ以テマシテ貿易ノ調節、通商ノ擁護ガ出來ルト云フ目的デアアリニナルデセウガ、苟モ貿易ノ調節、通商ノ擁護ト云フ以上ハ、政府ガ貿易ニ向ツテ統制シ得ル實力、政府ノ權力ガ我國ノ産業ノ上ニ伸ビマシテ、サウシテ貿易ヲ十分ニ斟酌シ、意ノ如ク動カスヤウナ風ニ調節シ得ルダケノ實力ガアルノデナケレバ困ルト思フノデアリマス、果シテ今日ノ産業状態ハ、政府ノ意ノ如ク動カヤウナ風ノ状態ニアルカドウカ、若シ政府ノ思フ通りニナルヤウナ風ノ状態ニ置カレナカタナラバ、如何ニ此法案ヲ出サレテモ、其效果ヲ擧ゲルコトハ

甚ダ困難ダラウト思フノデアリマス、即チ政府ハ此法案ヲ出サレルニ際シマシテ、ドウ云フ風ニスレバ我國ノ通商ヲ擁護スルコトガ出來ルカ、通商ノ基礎タル所ノ産業ヲ左石スルヤウナ風ノ、調節スルヤウナ風ノ状態ヲ作ツテ、サウシテ此目的ニ向ツテ適當ニ運用サレルヤウナ風ニ御考ヘニナツテ居ルノデアアルカ、サウ云フヤウナ風ノ工作ヲシツツ、ソレデ以テ此案ヲ出サレタノデアアルカ、サウデナクシテ漫然出サレタノデアアルカ、其點ヲ伺ヒタイノデアリマス、私ハ今日ノ我國ノ産業状態ヲ見マスルト云フト、産業其モノガ一ツノ全體トシテ、一個ノ體トシテ處理サレテ居ラナイノヲ甚ダ遺憾トスルモノデアリマス、是ハ私ガ産業界ノコトニ付テ不案内デアアルモノデアアルカラ、サウ感ズルノカモ知レマセヌガ、何トナクサウ云フ感ガ致スノデアリマシテ、之ヲ行政管轄官廳ノ方カラ見マスルト云フト、我國ノ行政ハ産業ヲ産業全體トシテ、或官廳ガ主管トシテ居ルコトハナイノデアリマス、其産業ハ各部々々、部分的ニ各官廳ニ分割サレテ居ル、分ケラレテ管轄サレテ居ル所ノ情勢デアアルノデアリマス、例ヘバ産業ノ會社ノ方面、資本會社ノ方面ト云フモノハ、商工省ニ於テ管理サレテ居ル、勞働ノ方面ハ内務省ノ主管デアアル、通商ノ方面ハ外務省、關稅ノ方面ハ大藏省、斯ウ云フヤウナ風ニ分レテ居ルノデアリマス、而シテ無論此各省ノ間ニ於テハ相當ノ聯絡ガアルト云フコトハ考ヘマスルシ、又各種ノ委員會ガ

其間ヲ縫ッテ、サウシテ成ルベク聯絡ヲ取ツテ
居ルト云フコトハ、私ト雖モ考ヘテ居ルケ
レドモ、果シテ産業全體ヲ全體トシテ考ヘ
産業ノ全體ノ利益ヲ保護スルヤウニ、各省
ノ人ガ共同シテ最善ノ努力ヲ盡シテ居ルカ
ドウカト云フ點ニ付キマシテハ、甚ダ疑ナ
キヲ得ナイノデアリマス、殊ニ近年各行政
官廳ハ非常ニ發展ヲ致シマシテ、局課ハ段
段増シマスト同時ニ、經費モ段々増加シマ
シテ、ソレノ專門的ニ各種ノ調査ヲ進メ
テ居ルノデアリマスカラシテ、産業ヲ各
部各部ノ部面カラ見マスルト云フト、非常
ニ微細ニ互ツテ、隨分行届イテ研究モ積ンデ
居ルノデアリマス、併ナガラ之ヲ人體ニ例
ヘテ見レバ、或省ニ於テハ手ノコトニ付テ
非常ニ考ヘテ居ル、或省ニ於テハ足ノコト
ニ付テ非常ニ注意ヲ拂ッテ研究ヲシテ居ル、
或省ハ胴ノコトニ付テ、或省ハ頭ト云フヤ
ウナ風ニナツテ居ルノデアリマシテ、其省々々
ニ於テハ異常ニ發展ヲ爲シテ居リマスルガ、
之ヲ全體ノ人間ト見ル時ニ於テハ果シテ均
勢ガ取レ、釣合ガ取レテ居ル人間トシテ考
ヘテ居ルカドウカト云フコトニ付テハ、非
常ニ疑ヒガアルノデアリマス、ノミナラス
之ヲ人間トシテ、一ツノ、一箇ノ體トシテ
之ヲ遇スル時ニ於キマシテカラハ、隨分各
種ノ缺陷ガアルノデアリ、私ハ此法案ガ主
管ガ大藏大臣ニ於テ提案サレテ居リマスカ
ラシテ、先ヅ考ヘテ見マスルナラバ、大藏
省ガ此法案ヲ施行スル時ニ於テ、唯此條文
ダケヲ讀ミマシタナラバ、外國ノ政府ガ意

ニ高關稅ヲ課シタカラ、斯ウ云フ譯デ以テ
我國モ其外國ニ對シテ、直グ高關稅ヲ以
テ應戰スルト云フコトデアリマシタナラ
バ、此法案ニ對シテ一應ノ意味ハ盡シテ居
ルノデアリマス、併ナガラ其國ガ如何ナル
考ヲ以テ、イヤナ言葉ヲ以テ言ヒマスレバ、
善意ヲ以テソレヲヤツテ居ルノカ、惡意ヲ以
テソレヲヤツテ居ルノカ、唯政府ダケノコト
デヤツテ居ルカ、其後ロニ於テ或國民ガ或特
殊ノ工作ヲスルノデアリカト云フコトヲ考
ヘナイデ以テ、唯一様ニ機械的ニサウ云フ
風ナ關稅政策ヲ執リマシタナラバ、ソレガ
果シテ機宜ノコトデアリマセウカ、ドウデ
アリマセウカ、斯ノ如キ意味ニ於テ大藏省
ノ官吏ノ諸君ハ、勞働問題ナリ若クハ資本
關係ナリ、外國ノ國民ノ思想感情ニ付テ絶
エズ注意ヲ拂ッテ居ッテ、此モノニ對シテハ
斯ウ云フ處置ヲ執ラナケレバナラヌ、此モ
ノニ對シテハ斯ウ云フ處置ヲ執ラナケレバ
ナラヌト云フ風ニ、十分此事ヲ御考ヘニナッ
テ居ルノデアリマセウカドウカ、此心持ナ
リ、其研究ヲ十分ニ盡シタ所デヤラナカッ
ナラバ、折角此法案ヲ作りマシテモ、其法
案ノ眞ノ目的、眞ノ通商擁護ト云フモノハ
遂ゲラレカドウカト云フコトヲ疑ハザル
ヲ得ナイノデアリマス、先程カラ申シマシ
タ如ク、産業ガ各官廳ニ依ツテ分割サレテ
處理サレテ居ル結果ト致シマシテハ、遺憾
ナガラ我國ノ産業ハ畸形ノ状態ニアル、一
部ハ非常ニ發達スルケレドモ、一部ハ發達
シナイモノデアリマシテ、釣合ガ取レテ居

ラナイ、ソレガ爲ニ非常ニ弱味ガアルコト
ヲ我ニハ思フノデアリマス、ノミナラズ今
日ノソレヲ取扱フ官吏諸君ハドウカト申シ
マシタナラバ、今日ノ官吏ノ養成法ニ付キ
マシテ非常ニ缺點ガアルノデアリマシテ、
甲ノ官署ニ育ツタ人間ハ其省以外ニハ、容易
ニ他ノ省ニ轉ズルコトガ出来ナイ形勢ニア
ル、從テ甲ノ省ニ入ッタ人間ハ多年其省ノ生
拔キニナツテシマフ、乙ノ省ノ狀況ト云フモ
ノニ付テハ、深ク考ヘタリ深ク其機微ヲ吞
込ムコトガ困難ナ状態ニ置カレテ居ルノデア
リマス、而シテ我國ノ官吏ノ如ク精勵恪勤ナモノ
ハナイ、自分ノ主管事務ニ付テ専心ニ研究イタ
シマスカラシテ、益、其専門ノ事務ニ關ス
ル所ノ知識ハ増加シテ參リマス、ソレカラ
ソレノ各自ノ事務ニ精通シテ來ルガ、而
モ其全體カラ見テ、全體ノ一部トシテ研究
シテ居ルカト申シマシタナラバ、全體トシ
テ見ルコトモアルノデアリマスガ、ソレヨ
リハ寧ロ自己ノ事務ニ忠ナル方面ニ於キマ
シテ、局部的ニ觀察スルヤウナ風ノ弊ガナ
イトモ限ラレナイノデアリマスガ、茲ニ於
テカ官廳ノ主管事務ノ整理、竝ニ官吏ノ氣
風トニ依リマシテ、一層日本ノ産業ト云フ
モノハ畸形的ニ發達スルヤウナ風ノ情勢ニ
置カレテ居ルノデアリマス、斯クノ如キ情
勢ガ日ニ盛ニナリツツアツテ、是ガ改マルト
云フ風ノ望ミハ、先ヅ今日ニ於テハナイノ
デアリマス、昔明治ノ時代ニ於キマシテハ、
考ヘテ見マスと云フト、事務ハ各省ニ分レ
テ居リマシタガ、今日ホド省ガ多クナク、

尙ホ官廳モ多クナク、又局ニ當ル者ト云フ
モノハ、自然ノ必要上少數ノ人ガ局ニ當
テ居リマシテ、サウシテ他ノ省ト事務ニ付
テモ、又産業全體ニ付テモ、觀察シナケレ
バナラヌト云フ風ノ境遇ニ置カレテ居ッ
ノデアリマス、從テ絶エズ自分ノ事務ニ就
テ居ル時ニ於テモ、全體トシテノ考ヲ懷イ
テ居ッテ、全體ノ一部トシテ、サウシテドウ
スレバ調和シ得ルカト云フ風ノ考慮ガ、自
ラ廻ラサレタヤウニ思フノデアリマスガ、
今日ニ於テハ左様ナ機會ガ段々乏シクナッ
テ參リマシタ、シテ見マスと云フト、個人
的ニ依ツテ此産業ノ大體ヲ觀察シ、産業ヲ國
家ノ組織體トシテ見ルコトガ出来ナクナリ
マシタ以上ハ、ドウシテモ制度トシテ産業
ノ機構ヲ統轄シテ處理スルヤウナ風ナ、又
サウ云フ風ノ眼ヲ以テ始終産業全體ヲ觀察
スルヤウナ風ノ、一ツノ或機關ヲ作り、左
様ナ工夫ヲ盡サナカッタナラバドウカト思
フノデアリマス、此際ニ於テ政府ハ、産業
ヲ産業全體トシテ觀察スルヤウナ風ノ機關、
若クハ左様ナ風ニ見ルヤウナ風ノ機運、風
潮ト云フモノヲ作り出サヤウニ御盡力ニナッ
テ居ルノデアアルカドウカ、而シテ如何ナル
コトガデアリマシテモ、其畸形ノ發達ヲナシ
テ居ル爲ニ、他カラ乗ゼラレルヤウナ風ノ
虞ガナイヤウニサレカドウカ、政府ノ御
所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、私ハ獨リ此弊
ハ官廳ノミナラズ、民間當業者ニ於テモ矢
張り同ジダト思フノデアリマス、今日ドノ
會社デ、民間ノ當業者ニ於テ産業ニ關スル

所ノ聯絡統一ガアルカト申シテ見マシクナ
 ラバ、私ハ甚ダ不案内デアリマスケレドモ、
 此點ニ付テハ甚ダ缺點ガアルト云フコトヲ
 思フノデアリマス、若シサモナケレバ數年
 前ニ於テ現ハレタ如ク、例ヘバ基礎工事デ
 アル所ノ鐵ニ付テモ、無茶苦茶ニ輸入シテ、
 サウシテ處分ニ困ルヤウナ風ノコトヤ、其
 他各種ノ色ミノ弊害ハナイデアリマセウ、
 又當業者ハ貿易ハ自由デアルト云フ所ノ主
 義ノ下ニ於テ、從來極端ニマデ自由競争ヲ
 ノク爲ニ、隨分不都合ナ、若クハ不合理ナ
 不利ノ競争ヲ致シマシテ、ソレガ爲ニ隨分
 色ミナ不利益ヲ蒙ツタト云フヤウナ風ノコ
 トモ起ラナカッタラウト思フノデアリマス、
 ドウシクテ所デ日本ノ今日ノ産業ニ向ッテハ
 所謂バラ／＼デアルノダ、統轄ガサレテ居
 ラスト云フ所ノ非難ハ是ハ甘ンジテ受ケナ
 ケレバナラス、之ヲドウ云フ風ニシナケレ
 バナラナイト云フコトニ付テ、政府ハ御考
 ニナッテ居ルカ、通商ヲ唯擁護スルト口デ呼
 ビマシテモ、産業ガバラ／＼ニ、政府ノ威
 令モ行ハレズ、民間ノ當業者ノ勢力モ如何
 トモスルコトガ出來ナイヤウナ風ノ産業ノ
 状態デアリマシクナラバ、何デ此目的ヲ達
 スルコトガ出來マセウ、之ニ依ル以上ニ於
 テハ、産業組織ニ向ッテ、産業ノ機構ニ付テ、
 相當ノ統制ガ出來ルヤウナ風ノ實際ニ置カ
 レテコソ、初メテ本案ノ目的ガ達シ得ラレ
 ルノダト思フノデアリマス、此意味ニ於キ
 マシテ、政府ハ如何ナル注意ヲ御拂ヒニナッ
 テ居ルノデアリマスカ、而シテソレニ付テ

如何ナル努力ヲセラレテ、所謂産業國策ト
 申シマセウカ、ソレニ付キマシテノ御經綸
 ガオアリニナッテ居ルデアラウカ、其點ヲ
 伺ッテ見タイノデアリマス、之ヲ要スルニ、
 唯通商ヲ擁護スル、貿易ヲ調節スルト言ッテ
 見タ所ガ、ソレヲ動かサダケノ實力ガナイ、
 ソレヲウマク處理スルヤウナ風ノ組織ニナッ
 テ居ラヌ時ニ於キマシテハ、如何ニ何ト言ッ
 テモ駄目ダト思フ、徒ニ外國ヲシテ日本ハ
 關稅戰爭ヲスルノダ、貿易戰爭ヲスルノダ
 ト云フ風ノクダラナイ疑ヲ招カシテ、クダ
 ラナイ刺戟ヲ與フルニ過ギナイト思フノデ
 アリマスデ、唯聲ダケヲ大キク致シマシテ、
 サウシテ何等ノ實行ガ伴ハナイ風ノ感ヲ致
 スノデアリマスカラシテ、此機會ニ於キマ
 シテ政府ハドウ云フ決心ノ下ニ於テ、如何
 ナル準備ノ下ニ於テ、如何ナル經綸ヲ以テ、
 サウシテ色ミノコトヲサレテ此案ヲ提出サ
 レタカ、其理由ヲ伺ヒタイト思フノデアリ
 マス

〔國務大臣松本素治君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松本素治君) 只今赤池君ノ質

問ハ總理大臣ノ御答辯ヲ求メラレタノデア
 リマス、生憎、只今總理大臣ガ差支デ居ラ
 レヌノデアリマス、一應私カラ申上ガマシ
 テ、更ニ速記録ニ依リマシテ御質問及私ノ
 答辯等ヲ見テ貰ヒマシタ上デ、機會ガアリ
 マシクナラバ、御答スルコトガアルカモ知
 レスト思フノデアリマス、ソレヲ御諒承ヲ
 願ヒタイノデアリマス、御質問ノ第一點
 ハ、政府ハ此法案ヲ以テ貿易調節、通商ノ

擁護ヲ完全ニ果シ得ルト考ヘルカ、此法案
 ダケデ宜シト考ヘルカト云フコトデアリ
 マス、ソレニ付キマシテ更ニ三點ニ分ツタ
 御話ガアツクノデアリマス、其第一點ハ、此
 法案ハ外國政府ノ執リ又ハ執ラムトスル措
 置ニ對應スルモノデアツテ、外國ノ國民ノ執
 リ又ハ執ラムトスル措置ニ對應スルコトニ
 ハ及ンデ居ラスガ、是デハ足りナイノデハ
 ナイカト云フ御話デアリマス、是ハ誠ニ御
 尤モナコトト思フ、外國ノ政府ノ措置又ハ
 政策ト離レマシテ、外國ノ民ノ妨害的ノ措
 置ト云フコトハ勿論アリ得ルノデアリマ
 ス、併ナガラ此法案ニ於キマシテハ、午前
 ニ於キマシテ桑山君カラモ御話ガアリマシ
 タヤウナ、相當廣汎ナル範圍ニ於テ委任ヲ
 受ケル爲ニ出來テ居ル法案デアリマスルノ
 デ、若シ此外國ノ政府ノ措置以外ニ、國民
 ノ措置ト云フヤウナコトニ對應スルト云フ
 所マデ及ビマスル時ハ、是ハ其範圍ガ極メ
 テ不明確ニナリマス、其措置タルヤ必シモ
 直接我が産業ニ對シマシテ敵對的ノ措置デ
 アリマセヌデモ、直ニ我産業ニ重大ナル影
 響ヲ及ボス措置ガアリ得ルノデアリマス、
 サウ云フ場合ニ於キマシテモ、尙ホ此法律
 ニ基キマシテ、政府ニ於テ勅令ヲ以テ、例
 ヘバ輸入稅ヲ増加スルト云フヤウナコトヲ
 定メ得ルト云フコトニナリマス、我國ノ
 産業ノ保護、單純ナル産業ノ保護ノ爲ニ關
 稅ヲ増スト云フヤウナコトニ迄及ブ處ガア
 リマス、其適用ノ範圍ガ甚ダ不明確ニナリ
 マス、然ラバ赤池君ノ御述ベノヤウナコト

ハ何等怖レナイデ宜シイカト申セバ、是ハ
 勿論非常ニ考ヘナケレバナリマセヌ、若シ
 モ外國政府ノ措置トハ目シ得ナイコトニ依
 リマシテ、我國ノ産業ガ大ナル障礙ヲ被リ
 マスルヤウナコトガアリマスレバ、是ハ已
 ムヲ得ナイノデアリマスルカラ、法律又ハ
 法律ニ代ルベキ命令ヲ以テノミ之ガ對策ヲ
 講ズルノ外ハナカラウト思ヒマス、此法律
 トシマシテハ、委任ヲスルニ付キマシテ、
 明確ニ範圍ヲシマス必要上、外國ノ政府ノ措
 置ダケヲ對象トスルコトニ致シタノデアリ
 マス、尙ホ茲ニ御斷リ申シテ置クベキコト
 ハ、外國ノ執リ又執ラムトスル措置ト申シ
 マス其中ニハ、私ノ考デハ不作爲モアラウ
 ト思フ、外國政府ハ直接ハ何等措置ヲ執ラ
 スヤウナ額ヲシテ居リマシテ、其外國ノ商
 人ガ勝手次第ナル、勝手次第ノコトヲ致シ
 マシテ我通商ヲ妨害スルニ當ツテ、當然國家
 トシテ之ニ對シテ相當ノ制裁ヲ加フベキニ
 モ拘ラズ、何等ノ手段ヲシナイト云フコト
 ハ即チ一ツノ不作爲デアリマス、不作爲モ
 亦一ツノ措置デアルト目スベキ場合ガアリ
 得ルト私ハ考ヘテ居リマス、ソレカラ第二
 點ハ、此法律ヲ施行スルニ當リマシテハ、
 國際貿易戰ノ非常ニ激甚ナルコトヲ豫想シ
 ナケレバナラス、其際ニ此外國ガ資本又ハ
 勞働ノ關係ニ於テ我産業ヲ攪亂セムトスル
 ニ當ツテ、之ニ對應スルノ準備ガアルノ
 カドウカト云フコトデアリマス、是亦非
 常ニ御尤モナコトデアリマシテ、大イニ考
 ヘナケレバナラヌノデアリマスガ、此

外國資本ニ依ル攪亂ト云フコトニ對シマシテハ、此頃御承知ノヤウニ數年來、又此議會ニ於キマシテモ、我方重要産業ノ統制ニ關係ノアリマスル法規ヲ相當作テ居ルノデアリマス、是等ノ法規ノ働キニ依リ、マダ是方足リマセヌケレバ、之ヲ追加イタシマシテ、サウシテ此産業ヲ統制スルコトニ依ツテ、資本ノ上カラ來マスル攪亂ト云フコトニハ應ズル外ハナカラウト考ヘテ居リマス、ソレカラ労働關係カラノ攪亂ト云フコトニ付キマシテハ、只今御話ノヤウニ幸ニ近時ハ我國ノ勞資ノ關係ガ少クトモ表面ニ於キマシテハ、頗ル順調ナル状態ニアルノデアリマス、此際ニ當リマシテ此勞資ノ間ノ關係ヲ一層調節イタクシマシテ、勞資ノ間ノ衝突ヲ來スベキ原因トナルヤウナコトヲ之ヲ取り去リマスルト同時ニ、新シク左様ナ原因ヲ起サヌヤウニ努メテ參ルノ外ナイト存ジテ居リマス、是ハ一般ノ此労働對策デ之ヲ努メテ參ルヨリ外ハナカラウト考ヘテ居リマス、労働對策及社會政策ト云フコトデ努メテ參ルノ外ハナカラウト考ヘテ居リマス、ソレカラ第三ハ、此法律ノ著眼シテ居ル所ハ、主トシテ此取引關係ノ販賣統制ノ關係デアツテ、生産統制ニハ及ンデ居ラヌ、併ナガラ生産ノ統制ガナケレバ、其末ノ方ノ販賣ノ統制ダケデハ濟ムマイト云フ御話デアリマス、是モ亦余ク御同感デアリマス、此法律ハ是ハ外國ノ措置ニ對應スル爲ノ非常手段ヲ與ヘテ居ルダケノモノデアリマスガ、貿易關係ノ調節、通商擁護ノ

根本ノ對策ト致シマシテハ、勿論此生産ノ關係ニ於キマシテモ必要ナル程度ノ統制ヲ考ヘナケレバナラヌノデアリマシテ、此事ハ先程モ一言イタクシマシタヤウニ、各種ノ産業統制ニ關シマスル法規、殊ニ商業組合、工業組合、其他ノ組合ノ制度ト云フヤウナモノニ依リマシテ、生産販賣ヲ通ジテ、産業ニ必要ニ依リ得ザル範圍ニ於キマシテハ統制ヲ加ヘテ參ルト云フコトデ一貫シテ、産業ノ統制ヲ努ムルノ外ハ對策ガ無イコトト考ヘテ居リマス、ソレカラ第二點ハ貿易ノ調節、通商ノ擁護ハ、政府ヲ産業ノ上ニ統制力ヲ有スル状態ニ置カナケレバ出來ナイデアラウ、漫然斯ウ云フ案ヲ出シタ所ガ、單ニ外國ノ刺戟スルコトニ終テハ仕様ガナイト云フ御話デアリマス、即チ具體的ニ申セバ我國ニハ、産業全體ニ互ル主管官廳ガナイ、各省ノ官吏ハ専門的ニ各省ノコトハ知ツテ居ル、或ハ調査シテ居ルヤウデアアルガ、産業全體ニ對シテ大所高所カラ之ヲ調査研究スル所ノ機關ハ一ツモ無イヤウデアアル、是デハ此法律ノ實效ガ果シテ舉ガリ得ルカドウカト云フ御話デアツト思ヒマス、此點ハ誠ニ全部私ハ同感デアリマス、從來ノ我國ノ行政機構ガ、ドウモ各省ノ間ノ聯絡ヲ缺イテ居リマスルコトハ、單ニ産業關係ノミデハアリマセヌ、殊ニ此國ノ産業ハドウシテモ有機的ニ之ヲ見ナケレバナラヌノデアリマス、其産業ノ全般ニ互ツテ達觀シ得ルヤウナ機關ガ無イト云フコトハ、確カニ一ツノ缺點デアラウト思フ

ノデアリマス、サウ云フコトノ根本ノコトヲ匡正スルト云フコトニナリマスレバ、是ハ行政機關全部ニ互ツテノ大變革ヲ行ハナケレバナラヌノデアリマス、斯ノ如キコトガ俄ニ出來ルトハ私ハ思ヒマセヌガ、併ナガラ現在ノ行政機構ニ於キマシテモ、各省ノ間ノ聯絡ヲ協議會、委員會等ノ制度ヲ形式的デハナク、モット實質的ニヤリマシテ、サウシテ聯絡ヲ取りマシテ、又各省ノ官吏ガ單ニ或省ノ官吏デアルト云フ觀念ヲ捨テマシテ、我が國家ノ爲ニ、國家ノ産業全體ノ爲ノ官吏デアルト云フ眼ヲ以テ、自己ノ所管事務ヲ見ルト云フ觀念ヲ鼓吹イタクシマスレバ、此缺點ヲ或程度ニ於テ少クトモ補ヒ得ルモノト考ヘルノデアリマス、斯ウ云フコトニ付キマシテハ、此頃寄リ關係大臣ノ間ニ於キマシテ話ハシテ居リマス、此法律ノ實施ニ付キマシテモ出來ルダケ關係各省ノ當局ガ一致ヲ致シマシテ、必要ガアツタナラバ或ハ一種ノ會議的ノモノヲモ拵ヘマシテ、サウシテ必ズ協議ヲシ、産業全般ノ上カラ觀察ヲ致シマシテ、間違ハナイヤウナ適用ヲシテ行クヤウニ致シタイト云フコトヲ茲ニ申上ゲタイト思ヒマス、大體是デ御答ヲ致シタ積リデ居リマスルガ、赤池君ノ御話ノ根本ハ何等ノ力ヲ準備ナクシテ斯ノ如キ法律ヲ拵ヘマシテモ、之ヲ適正ニ使ヒ得ルカドウカ大イニ心配デアルト云フ御話ト思フノデアリマス、此御懸念ハ確カニ理由ノアルコトト私ハ考ヘルノデアリマス、此法律ガ出來マシタ上、之ヲ使ヒマス

ニ付キマシテハ、只今御話ノ諸點ノ如キ總テ之ヲ考慮イタクシマシテ、最善ノ努力ヲ致サナケレバナラヌ、又最善ノ努力ヲ致スト云フコトヲ茲ニ申上ゲテ宜シイト思フノデアリマス

○赤池濶君 此席デ御許シテ願ヒマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○赤池濶君 只今松本商工大臣カラ御懇切ナル御答辯ヲ得マシテ、私ハ非常ニ有難ク存ジテ居リマス、實ハ此法案其モノニ付テ此際是非ヲ申上ゲル考ハアリマセヌガ、此法案ヲ施行スルニ當ツテ、政府ノ定見、用意ガアルカドウカラ伺ヒマシタ所ガ、非常ニ明快ニ御話シ下サイマシテ、誠ニ有難ク存ジマス、ドウゾ一日モ早く商工大臣ノ御抱負ガ、實現スルヤウニアリタイト思フノデアリマス、此非常時ニ於キマシテこそ思ヒ切ツテ計畫ガ出來ルモノト思フデ居リマスルカラ、此機會ニ於キマシテ改ムベキハ改メ、鼓吹スベキ思潮ハ鼓吹シテ、大イニ人心ヲ作興シ、機構ヲ改メ、サウシテ此法案ノ如キモノガ完全ニ行ハレルヤウニアリタイモノダト思フノデアリマシテ、吳ミモ政府ノ御努力ヲ冀フ次第デアリマス、之ヲ以テ私ノ質問ハ終リマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 質疑ノ通告者ハ終リマシタ

○子爵池田政時君 只今議題ニ上ボリマシタ貿易調節及通商擁護ニ關スル法律案ハ重要ナル案件デアリ、且ツ關聯スル所ガアリ

マスカラ、輸出組合法中改正法律案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ勳議ヲ提出イタシマス

○子爵植村家治君 賛成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ勳議ニ御異議ゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第三、輸出生絲販賣統制法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、織田政務次官

輸出生絲販賣統制法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(小字及一ハ衆議院ノ修正ナリ)

輸出生絲販賣統制法案

輸出生絲販賣統制法案

第一條 本法ニ於テ輸出生絲間屋ト稱スルハ輸出ノ目的ヲ以テスル生絲ノ賣買

取引(取引所ノ賣買取引ヲ含マズ以下之ニ同ジ)ノ仲立又ハ取次ヲ業トスル者ヲ謂フ

主務大臣ノ指定スル地ニ於テ生絲ノ輸出ヲ業トスル者ニ對シ其ノ地ニ事務所ヲ設ケ生絲ノ販賣ヲ爲ス者ハ本法ノ適

用ニ付テハ之ヲ輸出生絲間屋ト看做ス

第二條 主務大臣ノ指定スル地ニ於テ生絲ノ輸出ヲ業トスル者ヲ買主トスル生絲ノ賣買取引ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ輸出ノ目的ヲ以テスル生絲ノ賣買取引ト看做ス

第三條 輸出生絲間屋ヲラントスル者ハ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

前項ノ免許ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 輸出生絲間屋ノ免許ノ期間ハ十年以内トス

第五條 輸出生絲間屋支店其ノ他ノ事務所ヲ設置セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 主務大臣ハ輸出生絲間屋ノ業務ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ必要ナル事項ヲ命令ルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ輸出生絲間屋ノ所爲ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ其ノ認可若ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第八條 輸出ノ目的ヲ以テスル生絲ノ賣買取引若ハ其ノ仲立ヲ爲ス者又ハ生絲ノ輸出ヲ爲ス者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ賣買取引又ハ輸出ニ關スル事項ヲ輸出生絲登錄原簿ニ登錄スルコトヲ要ス

第九條 前條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタル者又ハ其ノ利害關係人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸出生絲登錄原簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ輸出ノ目的ヲ以テスル生絲ノ賣買取引若ハ其ノ仲立ヲ爲ス者又ハ生絲ノ輸出ヲ爲ス者ニ對シ生絲ノ販賣ノ統制上必要ナル事項ヲ命ジ又ハ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 主務大臣取締上必要アリト認ムルトキハ輸出生絲間屋又ハ生絲ノ輸出ヲ業トスル者ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

第十二條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ輸出生絲間屋ノ業務ヲ行ヒタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條ノ規定ニ違反シタル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令又ハ第六條若ハ第七條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ニ違反シタル者

三 第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ依ル登錄ヲ怠リ又ハ不正ノ登錄ヲ爲シタル者

二 第十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ガ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第十五條 第八條ノ規定ニ依ル登錄ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者故ナク其ノ職務ニ關シ知得タル他人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 輸出ノ目的ヲ以テスル生絲ノ賣買取引若ハ其ノ仲立ヲ爲ス者又ハ生絲ノ輸出ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ輸出ノ目的ヲ以テスル生絲ノ賣買取引若ハ其ノ仲立ヲ爲ス者又ハ生絲ノ輸出ヲ爲ス者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際命令ノ定ムル所ニ依リ引續
キ六月以上輸出生絲問屋タル者又ハ其ノ
承繼人ハ本法施行ノ日ヨリ五年間之ヲ本
法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス
前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看
做サルル者本法施行ノ際現ニ支店其ノ他
ノ事務所ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ支店
其ノ他ノ事務所ニ付第五條ノ規定ニ依ル
認可ヲ受ケタルモノト看做ス

〔政府委員子爵織田信恒君演壇ニ登ル〕

○政府委員(子爵織田信恒君) 輸出生絲販
賣統制法案提出ノ理由ヲ説明イタシマス、
現今我國ニ於テ生産セラレマス生絲ノ大
部分ハ海外ニ於テ消費セラレ、其取引ハ主
トシテ輸出生絲市場ニ於テ行ハレルノデア
リマスルカラ、同市場ノ販賣組織及取引方
法ノ如何ハ、我が蠶絲業ニ取りマシテ極メ
テ重要ナル關係ヲ有スル次第デアリマス、
然ルニ輸出生絲市場ノ販賣組織及取引方法
ノ狀況ヲ見マスルニ、之ニ關スル諸種ノ制
度未ダ全クカラザルガ爲ニ、免角當業者間
ノ統制ヲ缺キ取引ノ圓滑公正ヲ期スルニ遺
憾ガアリマスノミナラズ、延イテ市價ノ安
定ヲ阻害スル場合モ、尠クナイノデアリマス、
依テ之ガ改善統制ヲ圖リマスコトハ、蠶絲
業ノ進展上極メテ肝要トスル所デアリマス、
茲ニ於キマシテ政府ハ昨年九月以來、輸出
生絲販賣統制調査會ヲ設置シ、輸出生絲販
賣統制ノ方策ニ關シ諮問イタシタノデアリ

マスガ、最近同調査會ニ於キマシテ、取敢
ズ急施ヲ要スル方策ノ答申ガアリマシタノ
デ、政府ニ於キマシテハ右答申ニ基キ本法
案ヲ提出スルコトニ相成ツタ次第デアリマ
ス、以上ノ次第デアリマシテ、本法案ハ輸
出生絲ノ販賣組織及取引方法ノ改善統制ヲ
圖ルノ趣旨デアリマシテ、其大要ヲ申シマ
スレバ、第一ハ輸出生絲問屋ノ免許制度ヲ
設クルコトニ致シマシタ、現在ハ多數弱小
ノ輸出生絲問屋ガ存シマシテ、販賣上遺憾
ノ點ガアリマスノデ、之ガ整理ヲ致シマス
ト共ニ、將來其續生ヲ防止スルコトニ致シ
マシタ、第二ハ輸出生絲登錄制度ヲ設クル
コトニ致シタノデアリマス、輸出生絲ノ販
賣取引ハ總テ之ヲ公ケノ原簿ニ登錄イタシ
マシテ、取引ノ公明ヲ確保スルト共ニ、販
賣統制上ノ效果ヲ全カラシムルニ資スルコ
トニ致シマシタ、第三ハ主務大臣ガ生絲販
賣統制上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲シ得ル
旨ノ權限ニ關スル規定ヲ設クルコトニ致シ
マシタ、蠶絲業非常ノ時ニ於キマシテ、政
府ハ必要ニ應ジマシテ當業者ノ自治的統制
ト相俟ツテ、國家權力ニ依リ販賣統制ノ完壁
ヲ期シ得ル措置ヲ取り得ルコトニ致シマシ
タ、以上ハ本案ノ要旨デアリマス、尙ホ衆
議院ニ於キマシテハ、本法案ノ表題ヲ輸出
生絲取引法案ト修正セラレタノデアリマス
ルガ、右ハ本法案ノ趣旨及運用上別段ニ支
障ナキモノト認メラレマスルカラ、政府ニ
於キマシテモ同意イタシタキ考ヘデ居リマ
ス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希

望イタシマス

○子爵池田政時君 只今議題ト相成リマシ
タ輸出生絲販賣統制法案モ亦重要ナル法案
デアリ、且ツ關聯スル所ガアリマスガ故
ニ、原蠶絲管理法案ノ特別委員ニ併託サレ
ムコトノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト
認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第四、石
油業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀
會、松本商工大臣

石油業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長伯爵近衛文麿殿

石油業法案

第一條 石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營
マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ石油精製業及石油輸入業ノ範圍
竝ニ許可ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ
以テ之ヲ定ム

第二條 石油精製業者又ハ石油輸入業者
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定

メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セン
トスルトキ亦同ジ

第三條 石油精製業者又ハ石油輸入業者
其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢
止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ
定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

石油精製業又ハ石油輸入業ヲ營ム會社
合併ヲ爲シ又ハ解散セントスルトキ亦
同ジ

第四條 石油ノ輸入ハ石油精製業者ガ其
ノ精製ニ必要ナル石油ヲ輸入スル場合
ヲ除クノ外石油輸入業者ニ非ザレバ之
ヲ爲スコトヲ得ズ但シ勅令ニ別段ノ規
定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ石油ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

第五條 石油精製業者又ハ石油輸入業者
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ノ輸入
數量ヲ標準トシテ算定シタル數量ノ石
油ヲ常時保有スベシ

第六條 石油精製業者又ハ石油輸入業者
ハ其ノ所有スル石油ヲ政府ガ命令ノ定
ムル所ニ依リ時價ヲ標準トシテ購入セ
ントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第七條 政府ハ公益上必要アリト認ムル
トキハ石油精製業者又ハ石油輸入業者
ニ對シ石油ノ販賣價格ノ變更、石油供
給量ノ確保其ノ他石油ノ需給ヲ調節ス
ル爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ
石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ對シ

其ノ設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第八條 政府第一條ノ許可又ハ前條ノ命令ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外石油業委員會ノ議ヲ經ベシ

石油業委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 石油精製業者又ハ石油輸入業者

本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ政府ノ命ジタル事項ヲ執行セザルトキハ政府ハ第一條ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第十條 行政官廳ハ石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ對シ其ノ業務ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ石油精製業者又ハ石油輸入業者ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十一條 政府ノ許可ヲ受ケズシテ石油精製業者又ハ石油輸入業者ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十三條 石油精製業者又ハ石油輸入業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第五條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第七條ノ命令ニ違反シタルトキ

第十四條 石油精製業者又ハ石油輸入業者第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ監督上必要ナル命令若ハ處分ニ違反シタル者

二 第十條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第十六條 石油精製業者又ハ石油輸入業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ石油精製業者又ハ石油輸入業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ石油精製業者ヲ營ム者又

ハ石油輸入業者ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
本法施行ノ際輸入ノ爲輸送ノ途ニ在ル石油又ハ本法施行前注文ヲ發シタル石油ヲ輸入セントスル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ政府ニ届出デタルトキハ第四條ノ規定ニ拘ラズ輸入ヲ爲スコトヲ得
第五條ノ規定ハ本法施行後六月間之ヲ適用セズ

（國務大臣松本素治君演壇ニ登ル）
○國務大臣（松本素治君） 石油業法案提案ノ理由ノ御説明申上ゲマス 産業並ニ國防上ノ重要資源タル石油ノ供給確保ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテモ既ニ諸般ノ施設ヲ行ツテ參リマシタガ、現ニ來年度ニ於キマシテモ商工省所管ニ於テ合計百八十餘萬圓ノ豫算ヲ計上シマシテ、各方面ニ互テ液體燃料ノ補給施設ヲ進ムルコトヲ致シテ居リマス、思フニ我國ノ執ルベキ石油政策ト致シマシテハ、内地石油資源ノ狀況等ヨリ推シマシテ、内外石油資源ノ確保、開發、代用燃料工業ノ振興等ニ今後益、力ヲ用フルノ要アルハ申上迄デモアリマセヌガ、一方ニ於キマシテ、本邦製油業ノ現狀並ニ石油製品供給ノ趨勢等カラ考ヘマシテ、是等ノ施設ト併セテ製油業ノ確立及石油供給量ノ確保ニ向ツテ進ムコトガ極メテ緊要デアルト認メラルノデアリマス、本邦ニ於ケル製油業ハ近年逐次發達ノ途ヲ辿ツテ參リマシタガ、現在尙ホ石油消費ノ主要部分ヲ

占ムル揮發油ト重油ニ付テハ、國內需要ノ過半ヲ外國ニ仰グノ實情ニアルノデアリマス、依テ我國製油業ノ確立ヲ圖リ、各種製品ニ付テ、自給ノ域ニ達セシムル爲ニハ、一面ニ於テ輸入ニ對シ適當ナル調整ヲ爲ス必要ガアルト共ニ、他ノ一面ニ於テ國內ノ製油業統制ヲ確保スル施設ヲ講ズルノ要ガアルト考ヘルノデアリマス、即チ石油ノ輸入業及石油精製業者ヲ政府ノ許可事業トシ、

兩々相俟ツテ本邦石油業ノ統制アル發達ヲ期セムトスル次第デアリマス、次ニ政府ニ於キマシテハ、本邦石油資源ノ狀態ニ鑑ミマシテ當時民間當業者ニ一定數量ノ石油ヲ保有セシメ、石油供給量ノ安定確保ニ資シ、以テ其供給ノ圓滑ヲ期スルコトヲ致シマシタ、本石油業法案ハ右ニ申述ベマシタル方策ヲ骨子トシテ立案イタシマシタモノデアリマシテ、本邦石油業ノ確立發展ヲ圖ル上ニ於キマシテ、極メテ重要且緊切デアルト考ヘルノデアリマス、何卒十分御審議ノ上御協贊アラムコトヲ冀ヒマス

○子爵池田政時君 只今議題トナリマシタ石油業法案ハ、極メテ重要ナル法案デアリマスル故ニ、其特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵植村家治君 贊成
○副議長（伯爵松平賴壽君） 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
（異議ナシト呼フ者アリ）
○副議長（伯爵松平賴壽君） 御異議ナイト

占ムル揮發油ト重油ニ付テハ、國內需要ノ過半ヲ外國ニ仰グノ實情ニアルノデアリマス、依テ我國製油業ノ確立ヲ圖リ、各種製品ニ付テ、自給ノ域ニ達セシムル爲ニハ、一面ニ於テ輸入ニ對シ適當ナル調整ヲ爲ス必要ガアルト共ニ、他ノ一面ニ於テ國內ノ製油業統制ヲ確保スル施設ヲ講ズルノ要ガアルト考ヘルノデアリマス、即チ石油ノ輸入業及石油精製業者ヲ政府ノ許可事業トシ、

兩々相俟ツテ本邦石油業ノ統制アル發達ヲ期セムトスル次第デアリマス、次ニ政府ニ於キマシテハ、本邦石油資源ノ狀態ニ鑑ミマシテ當時民間當業者ニ一定數量ノ石油ヲ保有セシメ、石油供給量ノ安定確保ニ資シ、以テ其供給ノ圓滑ヲ期スルコトヲ致シマシタ、本石油業法案ハ右ニ申述ベマシタル方策ヲ骨子トシテ立案イタシマシタモノデアリマシテ、本邦石油業ノ確立發展ヲ圖ル上ニ於キマシテ、極メテ重要且緊切デアルト考ヘルノデアリマス、何卒十分御審議ノ上御協贊アラムコトヲ冀ヒマス

○子爵池田政時君 只今議題トナリマシタ石油業法案ハ、極メテ重要ナル法案デアリマスル故ニ、其特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵植村家治君 贊成
○副議長（伯爵松平賴壽君） 池田子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
（異議ナシト呼フ者アリ）
○副議長（伯爵松平賴壽君） 御異議ナイト

認メマス、書記官ヲシテ氏名ヲ朗讀イタサセマス

〔小林書記官朗讀〕

石油業法案特別委員

- 侯爵細川 護立君 侯爵佐竹 義春君
- 伯爵樺山 愛輔君 子爵大久保 立君
- 子爵豊岡 圭資君 子爵保科 正昭君
- 眞野 文二君 男爵岩倉 道俱君
- 男爵渡邊 汀君 男爵三須 精一君
- 藤澤幾之輔君 橋本圭三郎君
- 倉知 鐵吉君 内藤 久寛君
- 根津嘉一郎君 飛嶋 文吉君
- 淺澤 金藏君 上野喜左衛門君

○副議長(伯爵松平頼壽君) 皆様ニ御諮リ

ヲ致シマスガ、只今大藏省ノ政府委員ハ都合ガアリマシテ出席ガゴサイマセヌ故ニ、日程ヲ變更スルコトニ御異存ゴサイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナケレバ次ノ日程ニ移リマス

○副議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十二、鐵道敷設法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ積、委員長報告、有馬委員長ノ御登壇ヲ望ミマス

鐵道敷設法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和九年三月十九日

官報號外 昭和九年三月二十三日 貴族院議事速記録第三十號

委員長 伯爵有馬 頼寧
貴族院議長伯爵近衛文麿殿

〔伯爵有馬頼寧君演壇ニ登ル〕

○伯爵有馬頼寧君 鐵道敷設法中改正法律案特別委員會ノ經過結果ヲ御報告申上ゲ

マス、本案ノ提出ノ理由ハ、要スルニ地方開發、又ハ軍事上必要ニシテ、且ツ鐵道經營上カラモ有利ト認メラレルガ故ニ、鐵道敷設法ヲ改正シテ其別表ニ埼玉縣大宮ヨリ川越ヲ經テ飯能附近ニ至ル鐵道、高知縣須崎ヨリ窪川ニ至ル鐵道及福岡縣添田ヨリ大分縣日田附近ニ至ル鐵道ノ三線ヲ追加シヤウト云フ趣旨デアリマス、委員會ハ八回開キマシテ、各委員ト政府當局トノ間ニ實質的客方重ナラレマシタ、詳シイコトハ速記録ニ讓リマシテ、大要ヲ申上ゲマス、先ヅ大宮・飯能附近間ノ鐵道ハ軍事上ノ必要カラ建設スルト云フガ其趣旨ハ如何ト云フ質問ニ對シマシテ、政府當局カラハ軍部ノ大體ノ要求ハ東京ノ迂迴線ノ建設デアリマスルシテ用越ヲ經テ大宮ヨリ飯能附近ニ至ル鐵道トシタトノ答辯ガゴサイマシタ、尙ホ此線ヲ敷設スレバ鴻ノ巢・飯能間及與野・立川間ノ線ハ敷設スルカドウカトノ質問ガアリマシタガ、新線ガ敷設セラレレバ事實上此二線ハ敷設セラレヌコトナル旨ノ答辯ガゴサイマシタ、次ニ須崎・窪川間ノ鐵道ニ付キマシテハ、此線ガ敷設サレレバ崎山・窪川間ハドウ云フコトニナルカト云フ質問ガゴサイマシタ、是モ前ト同ジク新線ガ決定サ

レレバ自然此線ヲ敷設スル必要ガナクナルトノコトデゴサイマス、次ニ添田ヨリ日田ニ至ル鐵道、之ニ付キマシテハ色々御質問ガゴサイマシタ、先ヅ添田・日田間ノ新線ガ決定シタ時ハ、中津・日田間ノ豫定線ハドウナルカト云フ質問ガアリマシタ

〔議長伯爵近衛文麿君議長席ニ著ク〕

之ニ對シマシテハ二線ト異ナリマシテ、中津ト添田トハ距離モアリ方向モ違ヒマスカラ、添田・日田間ガ決定サレマシテモ必シモ建設ノ必要ナシトハ申サレヌト云フ答辯デアリマシタ、尙ホ之ニ關聯致シマシテ耶馬溪鐵道ガ中津カラ守費マデ來テ居ルカラ、守費カラ日田ニ至ル線ヲ建設シタガ宜クハナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ當局ハ建設規程ノ改正ニ依ッテ日田・添田間ハ建設費ガ僅少デ済ムヤウニナッタコト、及ビ北九州ノ鑛業地帶ト日田方面トヲ結ブ必要ガアルコトカラ本區間ヲ選ンダトノコトデアリマス、更ニ進ンデ本鐵道ハ近ク久大線ガ全通スルノデアルカラ、其必要ガ差當リ左程ナイデハナイカト云フ質問ガアリマシタ、政府當局ハ久大線ガ全通ワスレバ尙更此久大線ト北九州トヲ結ブコトハ當然デアアルコトデアルト云フ答辯デアリマシタ、尙ホ本鐵道ニ關シマシテハ乘客貨物ノ種類及數量、勾配、運轉回數、輸送力、地方鐵道トノ聯絡等ニ付キマシテ、相當軍大ナル質問ガアリマシテ、政府當局ヨリソレゾレ答辯ガゴサイマシタ、次ニ本案トハ直接ノ關係ハゴサイマセヌガ、鐵道敷設法

ニ關スル一般ノ問題、省營自動車等ニ付キマシテ質問ガゴサイマシタ、先ヅ鐵道敷設法全廢ノ意思アリヤ否ヤニ付キマシテ、政府當局ハ全廢ノ意思ナキコトヲ答辯ニナリマシタガ、鐵道敷設法制定當時トハ交通界ノ事情ニ甚シイ變化ヲ生ジテ居リマスルカラ、豫定線ノ申デモ建設スル價值ノ少クナッタモノヲ生ズルニ至ッタトノコトデアリマシタ、次ニ省營自動車ニ付キマシテハ、省營自動車ハ民業壓迫ニナラナイカ、又之ニ依ッテ損害ヲ被ツタ民間自動車ニ對スル補償ガ、少ナ過ギルト云フ點ニ付テ御質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府當局ハ成ルベク民業ヲ壓迫シナイヤウニ努メルコト、及ビ補償額ハ一般的ニ見テ過少デナイガ、特殊ノ場合ニハ多少無理トモ思ハレルコトガナイデモナイト云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、質問ヲ終了イタシマシテ討論ニ入りマシタトコロ、一委員ヨリ省營自動車ニ依リ民業ヲ壓迫シナイコト、補償金額ノ過少ニナラナイコト、耶馬溪鐵道ノ將來ニ付テハ深甚ノ考慮ヲ拂ヒタキコトノ意見ガアリマシタ、此意見ニハ贊成セラルル委員ノ發言モアリマシタ、又或委員ハ新線ニ對スル政府ノ調査不十分ヲ理由トシ、反對ノ意見ガアリマシタガ、結局討論ヲ終リ採決ノ結果多數ヲ以テ本案ヲ可決セラレタノデアリマス、右御報告申上ゲマス

○議長(伯爵近衛文麿君) 御質疑ガナケレ

バ採決ヲ致シマスガ、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴサイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認

メマス

○子爵植村家治君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵梅園篤彦君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 植村子爵ノ動議

ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キ

マス、全部ヲ問題ニ供シマス、委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認

メマス

○子爵植村家治君 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵梅園篤彦君 賛成

○議長(公爵近衛文麿君) 植村子爵ノ動議

ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會ヲ開キ

マス、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認

メマス

メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 續イテ日程第十

三ニ移リタイト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認

メマス、日程第十三、著作權法中改正法律

案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、野村子爵

著作權法中改正法律案

右別冊ノ通修正議決セリ依テ及報告候也

昭和九年三月二十日

副委員長 子爵野村 益三

貴族院議長公爵近衛文麿君

〔特別委員ノ修正ニ係ル部分ノミヲ印刷シ

其ノ他ハ之ヲ略ス小字及ハ修正ナリ

第二十八條ノ三 出版權者ハ設定行爲ノ

定ムル所ニ依リ出版權ノ目的タル著作

物ヲ原作ノ儘印刷術其ノ他ノ機械的又

ハ化學的方法ニ依リ文書又ハ圖畫トシ

テ複製シ之ヲ發賣頒布スルノ權利ヲ專

有ス但シ

○著作權者タル著作ノ死亡シタ

ルトキ又ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキ場合ニ

於テ出版權ノ設定アリタル後三年ヲ經過

シタルトキ又ハ著作權者タル

著作ノ死亡シタルトキハ著作權者ハ

著作物ヲ全集其ノ他ノ編輯物ニ輯録シ

又ハ全集其ノ他ノ編輯物ノ一部ヲ分離

シテ別途ニ之ヲ出版スルコトヲ妨ゲズ

〔子爵野村益三君演壇ニ登ル〕

○子爵野村益三君 著作權法中改正法律案

委員長一條公爵御差支トノコトデ、私ガ代

テ御報告ヲ中上ゲルコトニ致シマス、御承

知ノ如ク著作權法ハ、總計五十一箇條ノ條

文ヨリ成立シテ居リマシテ、既ニ數回ノ改正

ヲ加ヘラレタノデアリマス、丁度今回デ四
回ノ改正ヲ加ヘラレムトシテ居ルノデアリ
マスルガ、現行法ハ章ヲ分ツコト四、此度、
之ニ改正ヲ加ヘラレマシテ、所謂出版權ナ
ル一章ヲ入レマシテ、結局五章ニ相成ツテ居
ルノデアリマス、其改正ノ要旨ヲ極メテ簡
單ニ御紹介ヲ申上ゲマス、第一ニ著作權
ノ保護ト申シマスカ、モウ一度言葉ヲ換ヘ
テ申シマスルト、出版者ニ對スル著作權ノ
權益擁護ト、斯ウ云フヤウナ意味モ含ミマ
ス、ソレカラ第二點ハ、只今御紹介申上ゲ
マシタ出版權ノ規定ヲ致シタコトデアリマ
ス、其次ニハ第三ニ、「レコード」類ノ著作權
ノ歸屬竝ニ權利内容ヲ明ニ致シタコトデア
リマス、此處デ序ニ御紹介ヲ申上ゲマスガ、
此「レコード」類ト云フコトヲ言ヒ現ハシマ
スノニ、實ニ廻リクドイ言葉ヲ用ヒテ居ル
ノデアリマスガ、「音ヲ機械的ニ複製スルノ
用ニ供スル機器ニ寫調」デアリマス、獨リ「レ
コード」ニ吹込ムコトヲ、左様ナ廻リクドイ
言葉デ申シテ居ルノデアリマスガ、是ハ已ム
ヲ得ナイコトト致シマシテ、端的ニ申シマ
スト、「レコード」類ノ著作權ノ歸屬及權利
内容ヲ明カニシタコト、是ガ第三點デアリ
マス、ソレカラモウ一ツハ外國文化ヲ成ル
ベク利用シヤウ、外國ノ文化ヲ成ルベク利

用スル、斯ウ云フ四箇條ガ、本回ノ改正ノ
要領ト諒承ヲ致シマス、一々是等ニ對スル
質疑應答ヲ御紹介申上ゲマス、ナカク
複雑イタシマスガ、只今申上ゲマシタヤウ
ニ「レコード」ノ所謂定義、「レコード」類ノ
定義ト云フヤウナコトモ錯綜シタ言葉ヲ用
ヒテ居ルノデ、改正ノ要旨タルハ著作權
ノ歸屬及ビ權利ノ内容ト云フヤウナコトニ
付テモ、色ミナ質疑應答ガゴザイマシタ、
尙ホ序ニ御紹介ヲ申上ゲマスガ、大分近來
此著作權ノコトニ付キマシテ、殊ニ作歌、
作曲ト云フヤウナ方面デ、外國カラ色ミノ
抗議ガ參ッテ居ルノデアリマス、尙ホ甚シキ
ニ至ッテハ、或外國人カラ深刻ナル抗議ヲ多
クノ場合ニ於テ持込ムト云フヤウナ事實モ
アルノデアリマス、ソレデ各條項ニ互リマ
シテ御紹介ヲ申上ゲマスコトハ、コ、デ省略
ヲ致シマシテ、速記録ガ既ニ印刷シテゴザ
イマスカラ、其速記録ニ付テ御諒承ヲ願フ
コトト致シタイト存ジマス、質疑ヲ終リマ
シテカラ特ニ外務大臣竝ニ内務大臣ノ出席
ヲ求メマシテ、斯ウ云フ質疑應答ガゴザイ
マシタ、ソレハ御承知ノ如ク此「ベルヌ」條
約ト云フモノハ著作權者ヲ保護イタシマシ
テ、而モ此内外平等ノ觀念ノ下カラ成立ッテ
居ルモノデアリマスガ、ドウモ我國ニ對シ
マシテハ豫期シタヤウナ利益ガ餘リナイノ
デアリマス、ソコデ公益ヲ主張スル、而モ
國家ガ之ヲ正當ニ考ヘルト云フ趣旨カラ、
來年ノ九月ニゴザイマスル會議ニ於キマシ
テ、我國カラ何等カ提案スル用意ガアルカ

ドウカ、斯ウ云フ質疑ヲ致サレタノデアリマス。ソコ外務大臣ハ御趣旨ハ尤モデアリマス、我々モ用意ガアルノデアリマス、諸外國ト立場ヲ異ニシテ居リマスルノミナラズ、特殊ノ立場ニアル我國トシテハ、ベールニ條約ノ著作權ニ關スル觀念ト云フモノヲ全然受入レルト云フコトハドウデアリマセウ、併ナガラ我國ガ之ニ依ッテ比較的利益ヲ受ケナイト云フ點カラ、俄ニ加盟カラ脱退スルト云フヤウナコトハ穩當デアラマイ、我々トシテハ出來ルダケ我國ノ特殊ノ事情ヲ考ヘテ、サウシテ來ルベキ會議ニ於テハ善處スル、今モ相當ソレニ對シテ考究イタシテ居リマスガ、尙ホ此上ニ考究ヲシテ善處シタイ、斯ウ云フ言明ヲ致サレマシタ、内務大臣ニ於カセラレテモ、全然外務大臣ノ言明ト同ジト云フ御言葉デ、我々ハ兩大臣ノ言明ヲ得テ大イニ安心ヲ致シタノデアリマス、斯クテ討論ニ入りマシテ、御手許ニ差廻ハンタヤウナ修正ノ動議ガ出マシテ、我々委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ其修正動議ヲ可決イタシタノデアリマス、ソレハ第二十八條ノ三デアリマシテ、此出版權ノ侵害ト云フ點ヲ考慮イタシマシテ、「出版權ノ設定アリタル後三年ヲ超過シタルトキ又ハ著作權者タル著作ノ死亡シタルトキ」、斯ウ云フヤウナコトヲ「著作權者タル著作ノ死亡シタルトキ又ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テ出版權ノ設定アリタル後三年ヲ超過シタル」云々、斯様ニ修正ヲ致シタノデアリマス、斯クテ此改正法律

案ヲ議決イタシマシタ、即チ著作權法中改正法律案ハ修正可決ヲ致シタ次第デアリマス、尙ホ其議決ニ際シマシテ、斯ウ云フコトヲ附加ヘテ御報告ヲ申シマス、ソレハ一委員カラノ御話デアリマシテ、本案ハ他ニモ修正ヲ加ヘムトスル簡條ガアルノデアラ、併ナガラ時日モ切迫ラシテ居リマスシ、取テ本案ノ趣旨ニ對シテ反對ト云フコトモナイノデ、近キ將來改正セラレルト云フコトヲ思料シテ、サウシテ此本案ニ贊成スル、斯ウ云フ御話ガアリマシテ、我々委員ハ是モ全體ガ認メマシテ、委員會ノ審議ヲ閉ヂテ譯デアリマス、以上報告ヲ終リマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○子爵植村家治君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵梅園篤彦君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 植村子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○子爵植村家治君 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

○子爵梅園篤彦君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 植村子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會ヲ開キマス、全部第二讀會ノ決議通りテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第五、昭和七年度第一豫備金支出ノ件、日程第六、昭和七年度特別會計第一豫備金支出ノ件、日程第七、昭和七年度特別會計豫備費支出ノ件、日程第八、昭和七年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件、日程第九、昭和八年度第二豫備金支出ノ件、日程第十、昭和八年度特別會計第二豫備金支出ノ件、日程第十一、昭和八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議、是等ノ七件ハ之ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス、堀切政務次官

昭和七年度第一豫備金支出ノ件

昭和七年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和七年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和七年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

昭和八年度第二豫備金支出ノ件

昭和八年度特別會計第二豫備金支出ノ件

昭和八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ

因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

〔政府委員堀切善兵衛君演壇ニ登ル〕

○政府委員(堀切善兵衛君) 只今議題トナリマシタ昭和七年度第一豫備金支出外六件ニ關スル事後承諾ヲ求ムル件ニ付キ、其大體ノ説明ヲ致サウト存ジマス、昭和七年度第一豫備金ノ豫算額ハ六百萬圓デアリマシタガ、昭和七年勅令第二百九十四號ニ依リ、第一豫備金ヨリ補充イタシマシタル主ナル事項ハ、外國在勤係其他臨時増給、軍事救護費、警察費連帶支辨金、刑務所收容費、家畜傳染病豫防費等デアリマシテ、其總額ハ五百七十九萬八千六百二十圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ其第一豫備金又ハ豫備費ヨリ豫算超過ノ支出ヲナシタ

ルモノガアリマス、次ニ昭和七年度滿洲事件第一豫備金支出ニ付キ申上ゲマス、昭和七年度滿洲事件第一豫備金ノ豫算額ハ二千萬圓デアリマスガ、昭和七年勅令第二百九十四號ニ依リ滿洲事件ニ補充イタクシマシタル金額ハ千九百九十七萬五千八百一十一圓デアリマス、次ニ昭和八年度第二豫備金支出ニ付申上ゲマス、昭和八年度第二豫備金ノ豫算額ハ八百萬圓デアリマシテ其支出ノ主ナル事項ヲ舉ゲマスレバ國際經濟會議參列費、「ジュネーヴ」一般軍縮會議參列費、早害救濟事業助成金及各省所管ニ互ル火災、風水害其他ニ因ル復舊費等デアリマシテ、其總額ハ三百九十六萬四千四百九十九圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ其第二豫備金及豫備金外ニ於テ、其歲計剩餘金或ハ歲入金ヲ以テ豫算超過及豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス、何卒御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレムコトヲ望ミマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御質疑ガナケレバ、以上七件ヲ同一ノ特別委員ニ付託イタシマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀イタサセマス
(小林書記官朗讀)
昭和七年度第一豫備金支出ノ件外六件
(承諾ヲ求ムル件)特別委員
侯爵徳川 義親君 子爵池田 政時君
子爵吉田 清風君 富谷銆太郎君
男爵加藤 成之君 阪本鈔之助君
林 平四郎君 浦井 徳藏君
松岡 潤吉君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十四、商標法中改正法律案、日程第十五、不正競争防止法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ二案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス、二荒委員長ノ登壇ヲ望ミマス
商標法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和九年三月二十日
委員長 伯爵二荒 芳徳

貴族院議長公爵近衛文麿殿
(伯爵二荒芳徳君演壇ニ登ル)
○伯爵二荒芳徳君 商標法中改正法律案竝ニ不正競争防止法案ノ二件ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告イタシマス、此二法案ハ所謂工業所有權保護同盟條約ト關係ガゴザイマスモノデアリマシテ、其提出ノ理由ト致シマシテハ、誠實ナル當業者ノ利益ヲ保護シ、又他方消費者ノ不測ニ被ル損害ヲ防止スルト云フ目的デアアルデアリマス、

而シテ工業所有權保護同盟ハ明治十六年ノ巴里ノ條約ニ依リマシテ、國際間ニ其決定ヲ見タノデアリマスガ、我國ト致シマシテハ明治三十二年ニ此條約ニ加盟イタシマシテ、其後三十三年、四十四年及大正十四年ノ改正ニ依リマシテ、此法律ヲ制定スルノ必要ヲ認メテ居ッタノデアリマス、併シ今日ニ至ルマデ色ミト國內ノ狀況ニ鑑ミマシテ其決定ガ暇取ツテ居ツタ譯デアリマス、即チ此法律ニ依リマスレバ、競争者ノ商品ト混同ヲ生ゼシメルヤウナ行爲、又競争者ノ商品ノ信用ヲ害スル虚偽ノ事實ヲ表示スル所ノ行爲、又條約國ノ紋章、旗章及其他ノ徽章ノ濫用ノ取締、他人ノ周知商標ノ登錄ノ拒絕及無効、又假設若クハ信用ノ商號ニ附加シテ、虚偽ノ原産地ヲ表示スル場合ニ關スル有效ナル救済等ヲ規定シタモノデゴザイマシテ、此改正ニ依リマシテ當業者間ノ激甚ナル競争ニ對シテ、不正ナル競争行爲ヲ防止シ、又被害者ノ救済ヲ致スト云フノガ趣旨デアアルデアリマシテ、我國ノ産業ノ堅實ヲ期スル爲ニハ、最モ必要ナル法案デアアルデアリマス、此二ツノ法案ヲ議スルニ當リマシテ、本特別委員會ハ二回開キマシテ、或委員カラハ如何ニ此工業所有權保護同盟條約ト云フモノガ出來上ツタカト云フコトニ付テノ質疑ガゴザイマシタシ、又他ノ委員カラハ、地方長官ニ照會シテ斯ノ如キ法律ヲ作ルコトノ意見ノ答申ヲ求メマシタコトニ關スル質疑ガゴザイマシタ、又他ノ委員カラハ所謂原産地詐稱ト云フ間

題ニ關シマシテハ、色ミト日本ノ國內ニ於ケル事情モアルノデアアルガ、其點ニ付テ疑問トスル所ヲ質問セラレマシタ、斯ウ致シマシテ此二案ハ條約ニ依リマス法案ガゴザイマスガ故ニ、今日之ヲ確定スルコトノ必要ナルコトヲ認メマシテ、全會一致ヲ以テ可決ヲ致シタノデアリマス、右御報告ヲ致シマス

○議長(公爵近衛文麿君) 兩案ヲ第二讀會ニ移スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス
○子爵西大路吉光君 直ニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス
○子爵樺村家治君 贊成
○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス
○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會、兩案全部委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス
○子爵西大路吉光君 直ニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス
○子爵樺村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會、第二讀會ノ決議通りテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十六、秋田鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲

公債發行ニ關スル法律案、日程第十七、播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對ス

ル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長

報告、是等ノ二案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス、有馬委員長ノ登壇ヲ望ミマス

秋田鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和九年三月二十日

委員長 伯爵有馬 賴寧

貴族院議長公爵近衛文麿殿

播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和九年三月二十日

委員長 伯爵有馬 賴寧

貴族院議長公爵近衛文麿殿

○伯爵有馬賴寧君 秋田鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案及播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案ニ付テ、委員會ノ經過並ニ結果ヲ申上ゲ

マス、秋田鐵道外三鐵道買收ニ付キマシテハ、其買收價額ノ算定基礎如何ト云フ質問

ガアリマシタ、之ニ對シ參考書ニ記載シタ數字ハ、會社ノ提出シタ營業報告ニ依ッタモノデアリマスルガ、實際買收價額ヲ算定イ

タシマスノニ、會社ノ帳簿ニ付キ調査シテ決定スル旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ秋田鐵道ノ未成線ノ處置及毛馬田・十和田間ノ

聯絡ノ點ニ付キマシテ質問ガアリマシタガ、秋田鐵道ノ未成線毛馬田・大湯間ハ工事

モ大シテ進ンデ居リマセヌガ爲ニ、補償シナイ旨ノ協定ガ成立シテ居ルコト、又毛馬田・

十和田間ノ聯絡ハ差當リ民業ノ自動車ニ依リ、將來同地方發展ノ模様ニ依リ、適當ノ

處置ヲ考フルトノコトデアリマス、又買收鐵道ノ従業員ノ處置ニ付テ質問ガアリマシ

タガ、現業員ハ大體省ニ引キ繼グ旨ノ答辯

ガゴザイマシタ、次ニ新宮・串本間ノ全線開通ノ時期ニ付テ質問ガアリマシタ、是ハ昭和十三年度迄ニ完成スル豫定ダサウデアリ

マス、次ニ播電鐵道中網干港播電龍野間ヲ補償スル理由ニ付テ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテハ姫津線ノ開通ニ依ッテ並行

線ニハナッテ居リマセヌガ、此區間モ營業不可能トナツタ爲ニ、補償ヲ爲ス旨ノ答辯ガゴ

ザイマシタ、右區間ノ廢線敷ヲ自動車道ニ利用シテ、自動車ヲ營業サセテハドウカト

云フ御質問ガアリマシタガ、ソレハ到底採算ガ出來ナイト云フコトデアリマス、尙ホ

此他國產自動車ノ獎勵ニ付キマシテ質問ガアリマシタ、政府トシテハ省營自動車ハ全

部國產ヲ使用シテ居ルガ、民間事業者ニ對シテ強制スルコトハ出來兼ネル旨ノ答辯ガゴ

ザイマシタ、其他買收鐵道ノ改良費ノコト、北海道ニ於ケル私設鐵道補助率及營業費ノ

査定等ニ付テ質問ガ行ハレマシテ、ソレゾレ當局ヨリ答辯ガゴザイマシタ、質問ヲ終

リマシテ討論ニ入りマシタ、先ツ秋田鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發

行ニ關スル法律案ヲ議題ニ供シマシタコト

ロ、贊成ノ意見ガアリマシテ討論ヲ終リマシタ、採決ヲ致シマシタ結果、全會一致ヲ

以テ本案ハ可決セラレマシタ、次ニ播電鐵道株式會社所屬鐵道ノ經營廢止ニ對スル補

償ノ爲公債發行ニ關スル法律案ヲ議題ニ供シマシタコト

ロ、是亦贊成ノ意見ガアリマシテ直ニ採決ニ入りマシタ、全會一致ヲ以テ本案ヲ可決イタシマシタノデアリマス、

以上御報告ヲ申上ゲマス

○議長(公爵近衛文麿君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第二讀會ヲ開キマス、兩案全部、委員長ノ報告通りテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通りテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十八、郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

郷又ハ町村祿高ニ對スル公債證書給與ニ關スル法律案
右本院提出案及送付候也
昭和九年三月十七日
衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

第一條 明治三年九月十日太政官布告藩政施行以後祿高ヲ有シタル郷又ハ町村ニシテ其ノ祿高ニ對スル公債證書給與ヲ受ケサル者及其ノ給與ニ不足アル者ニ對シテハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法並明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シ明治三年九月十日以後ノ祿高ニ對スル公債證書給與未濟額ヲ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ給與ス

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指

令ヲ受取リタル日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ハ之ヲ會計検査院法中改正法律案外一件ノ特別委員會ニ付託イタクシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第十九、所得稅法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會
所得稅法中改正法律案
右本院提出案及送付候也
昭和九年三月十七日
衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

所得稅法中左ノ通改正ス
第六條第二項ヲ削ル
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ハ之ヲ地租法中改正法律案外六件ノ特別委員ニ付託イタクシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十、議院法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

議院法中改正法律案
右本院提出案及送付候也
昭和九年三月二十日
衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

議院法中左ノ通改正ス

第一條中「四十日」ヲ「二十日」ニ改ム
第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各候補者ヲ選舉シ上奏勅裁ヲ請フヘシ
議長副議長ノ任命ハ親任式ヲ以テ之ヲ行フ
議長副議長ノ親任セララル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ
第四條 削除
第七條 各議院ノ議長ハ一員副議長ハ二員トス
第十二條中「常任委員會」ノ下「及」ヲ削リ「特別委員會」ノ下ニ「及常置委員會」ヲ加フ
第十五條 削除
第十九條第一項但書ヲ削リ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
議長副議長及議員ニシテ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス但シ死亡シタル者ハ當月マテノ歳費ヲ受ク

同條第三項中「官吏」ヲ「有給官吏」ニ改メ第四項ヲ左ノ如ク改ム
常置委員ハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ閉會中一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員特別委員及常置委員ノ四類トス

第二十條ノ二 全院委員ハ議院ノ委員ヲ以テ委員ト爲スモノトス
常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審查スル爲ニ議院ニ於テ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス
特別委員ハ一事件ヲ審查スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十條ノ三 常置委員ハ左ノ事件ヲ審查スル爲ニ議院ニ於テ選舉シ次ノ常會ニ於テ改選セララル、マテ其ノ任ニ在ルモノトス
一 政府ヨリ閉會後引續キ審查ヲ要求シタル議案
二 議院ニ於テ閉會後引續キ審查ヲ要求シタル議案
三 閉會中政府ヨリ審查ヲ要求シタル事項
常置委員會ハ審查スヘキ事件ノ有無ニ拘ラス政府ニ出席説明ヲ求ムルコトヲ得

第二十條ノ四 政府ハ前條第一項第三號ノ事項ニ付兩院各別ニ其ノ審查ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條第二項中「常任委員長」ノ下「及」ヲ削リ「特別委員長」ノ下ニ「及常置委員長」ヲ加フ

第二十二條中「常任委員會」ノ下「及」ヲ削

リ「特別委員會」ノ下ニ「及常置委員會」ヲ加フ

第二十三條 全院委員會ハ傍聴ヲ禁ス
常任委員會特別委員會及常置委員會ハ
議員ノ外傍聴ヲ禁ス但シ委員會ノ決議
ニ由リ議員ノ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第二十五條 削除

第二十六條第二項中「政府ノ同意ヲ得タルトキ」ノ下ニ「又ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキ」ヲ加フ

第二十八條中「政府ノ要求ニ由ルモノ」ノ下ニ「又ハ常置委員ノ審査ヲ經タルモノ」ヲ加フ

第三十條中「何時タリトモ」ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ

但シ兩議院ノ一ニ於テ議決ヲ經タルトキハ其ノ院ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十五條但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ常置委員ニ付託シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ノ日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ兩議院合會ニ於テ閉院式ヲ行フヘシ

第三十八條中「議長ハ直ニ傍聴人ヲ退去セシメ」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ發議アリタル場合ニ於テ議長必要ト認ムルトキハ直ニ傍聴人ヲ退去セシムルコトヲ得

第四十一條 削除

第四十四條中「經由シテ」ノ下ニ「國務大臣及」ヲ加フ

第四十五條 削除

第四十六條中「常任委員會」ノ下「又ハ」ヲ削リ「特別委員會」ノ下ニ「又ハ常置委員會」ヲ加フ

第四十八條中「三十人」ヲ「二十人」ニ改ム
第五十二條中「三十人」ヲ「二十人」ニ改ム

第五十四條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
兩議院ノ一ニ於テ議決シタル政府ノ議案ノ撤回ニ同意シタルトキハ之ヲ他ノ議院ニ通知スヘシ

第六十四條第二項中「三十人」ヲ「二十人」ニ改ム

第六十五條中「政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得」ヲ「政府ニ送付スヘシ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ請願處理ノ經過ヲ毎年各議院ニ報告スヘシ

第六十八條中「哀願ノ體式ヲ用ウ」ヲ「相當ノ敬禮ヲ守ル」ニ、「體式ニ違フ」ヲ「體式ヲ守ラサル」ニ改ム

第八十五條中「閉會中」ヲ削リ

第八十七條ノ二 議長ヨリ議場外ニ退去ヲ命セラレタル者其ノ命ニ服セサルトキハ議長ハ登院停止ヲ命スルコトヲ得

前項ノ登院停止ノ期間ハ三日トス

第八十七條ノ三 登院停止ヲ命セラレタル者議院外ニ退去セス又ハ登院停止中登院シタルトキハ會期中登院ヲ停止ス

第八十七條ノ四 懲罰事犯ニ由リ登院停止ニ處セラレタル者議院外ニ退去セス又ハ登院停止中登院シタルトキハ前條

ノ例ニ依ル

第九十三條中「議院又ハ委員會」ヲ「議院内」ニ改ム

第九十五條第三項中「各委員會」ノ下「又ハ各部」及「委員長」ノ下「又ハ部長」ヲ削ル

第九十六條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム
三 一定ノ期間登院ヲ停止ス

○子爵池田政時君 只今議題ニ上ボリマシタ議院法中改正法律案ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、特ニ衆議院議員選舉法中改正法律案ノ特別委員ニ併託サレムコトヲ望ミマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(公爵近衛文麿君) 池田子爵ノ動議ハ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十一、金錢債務臨時調停法中改正法律案、日程第二十二、司法代書人法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會、是等ノ二案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス

金錢債務臨時調停法中改正法律案
右本院提出案及送付候也

昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清
貴族院議長公爵近衛文麿殿

金錢債務臨時調停法中左ノ通改正ス
第二條第一項中「昭和七年七月三十一日以前ニ發生シタル」ヲ削ル

附則第二項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル
本法ハ當分ノ内其ノ效力ヲ有ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

司法代書人法中改正法律案
右本院提出案及送付候也

昭和九年三月二十日
衆議院議長 秋田 清
貴族院議長公爵近衛文麿殿

司法代書人法中左ノ通改正ス
「司法代書人法」ヲ「司法書士法」ニ改ム
第一條乃至第十一條中「司法代書人」ヲ「司法書士」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵近衛文麿君) 二案ハ之ヲ民事訴訟法中改正法律案外四件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十三、繭處理法案、衆議院提出、第一讀會

繭處理法案

右本院提出案及送付候也

昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

繭處理法

第一條 繭ハ乾繭ニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

第二條 繭ハ道府縣繭檢定所ノ檢定成績ニ依ルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

第三條 前二條ノ規定ノ適用ヲ除外スル場合ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ニ於テ產繭處理組合トハ養蠶業者ノ產繭ノ製絲、委託製絲、乾燥

又ハ販賣ヲ爲ス目的ヲ以テ組織スル左ノ四種ノ法人ヲ謂フ

一 製絲工場ヲ有スル產業組合製絲(製絲組合)

二 製絲工場ヲ有セサル產業組合製絲(委託製絲組合)

三 命令ノ定ムル所ニ依リ乾繭ヲ爲ス產業組合(乾繭組合)

四 命令ノ定ムル所ニ依リ特約取引ヲ爲ス養蠶實行組合(特約組合)

第五條 製絲組合及乾繭組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ委託製絲ヲ爲スコトヲ得

第六條 產繭處理組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ養蠶實行組合ノミヲ以テ組織スルコトヲ得

第七條 產繭處理組合カ聯合會ヲ組織スル場合ニ於テハ製絲組合、委託製絲組

合及乾繭組合ハ同種ノ組合ト看做ス
前項ノ聯合會ノ組織ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 委託製絲組合及乾繭組合ヨリ製絲ノ委託ヲ受クヘキ製絲業者ニ對スル制限及取締並委託製絲ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 產繭處理組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ生産シタル物、產業ニ必要ナル原料若ハ材料又ハ生産ノ方法ニ對スル検査其ノ他必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限

二 組合員ノ產業ニ關スル指導研究調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

第十條 產繭處理組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規定ヲ變更セムトスル場合亦同シ

第十一條 產繭處理組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ニ違反シタル者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十二條 產業上ノ弊害ヲ防除シ又ハ矯正スル爲ニ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ產繭處理組合ニ對シ検査其ノ他ノ施設ヲ命スルコトヲ得

第十三條 產業上ノ弊害ヲ防除シ又ハ矯正スル爲ニ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ產繭處理組合ノ組合員又ハ其ノ

組合ノ組合員ニ非シテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ從フヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十四條 行政官廳公益上必要ト認ムルトキハ產繭處理組合ニ對シ特定ノ行爲ヲ爲シ又ハ爲スヘカラサルコトヲ命スルコトヲ得

第十五條 主務大臣又ハ地方長官取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ若ハ帳簿、繭、生絲其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證券ヲ携帯スヘシ

第十六條 乾繭ノ取引市場ヲ營マムトスル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

乾繭取引市場ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 本法及本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 繭ノ賣買又ハ委託製絲ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇入其ノ他ノ從業者カ本法又ハ本法ニ

基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ繭賣買又ハ委託製絲ヲ爲ス者及繭取引市場ヲ營ム者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵近衛文麿君) 本案ハ之ヲ地方財政補整交付金法案外二件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二十四、速記士法案、日程第二十五、建築士法案、衆議院提出、第二讀會、是等ノ二案ハ之ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセスカ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認メマス

速記士法案

右本院提出案及送付候也

昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

速記士法

第一條 速記士ハ速記法ヲ用ヒ法令ニ依ル文書ノ作成ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條 速記士タラムトスル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

一 帝國臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト

二 速記士試験ニ合格シタルコト

速記士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ速記士試験委員ノ銓衡ニ依リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス速記士タル資格ヲ有ス

一 貴族院又ハ衆議院ノ速記者養成所ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上速記ニ關スル業務ニ従事シタル者

二 貴族院又ハ衆議院ノ速記技手以上ノ職ニ在リ又ハ在リタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ速記士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者

又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此

ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復權セサル者

第五條 速記士タラムトスル者ハ速記士名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

速記士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

速記士ハ其ノ業務ニ關シ速記士ノ稱號ヲ用フヘシ

第六條 速記士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス

第七條 速記士ハ速記士會ヲ設立シ其ノ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第八條 速記士會ハ速記士ノ品位ノ保持及速記事務ノ改善進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條 速記士タル資格ヲ有セスシテ速記士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 速記士タル資格ヲ有スルモ其ノ登錄ヲ受ケセスシテ速記士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第十一條 速記士本法若ハ本法ニ基キテ

發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲アリタルトキハ主務大臣ハ速記士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒ス

速記士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 速記士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 譴責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以内速記士ノ業務ノ停止

四 速記士ノ登錄ノ抹消

前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ執行ニ付之ヲ準用ス

第十三條 速記士又ハ速記士タリシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知得シタル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際引續キ一年以上速記ノ實務ニ従事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ出願シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス速記士試験委員ノ銓衡ヲ經テ速記士タル資格ヲ有ス

建築士法案
右本院提出案及送付候也

昭和九年三月二十日

衆議院議長 秋田 清

建築士法

第一條 建築士ハ建築士ノ稱號ヲ用ヒテ建築ニ關スル設計、工事監督、相談、調査、鑑定其ノ他之ニ附隨スル事項ヲ取扱フコトヲ業トスルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ建築士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 建築士試験ニ合格シタルコト

建築士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士タル資格ヲ有ス

一 建築學ヲ修メタル工學博士

二 帝國大學若ハ大學令ニ依リ大學ニ於テ建築學ヲ修メ之ヲ卒業シ一年以上上建築ニ關スル實務ニ従事シタル者

又ハ專門學校令ニ依リ專門學校ニ於テ建築學ヲ修メ之ヲ卒業シ一年以上建築ニ關スル實務ニ従事シタル者

三 主務大臣ニ於テ前號ニ掲クル學校ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ建築學ヲ修メ之ヲ卒業シ一年以上建築ニ關スル實務ニ従事シタル者

四 前各號以外ノ者ニシテ建築士試験委員ノ銜ニ依リ前二號同等ノ資格アリト認メラレタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ建築士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 破産者ニシテ復權ヲ得サル者
三 建築士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者

四 建築士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 建築士ハ自ラ左ノ業務ヲ營ミ又ハ左ノ業務ヲ營ム者ノ使用人タルコトヲ得ス

一 土木建築ニ關スル請負業
二 建築材料ニ關スル商工業又ハ製造業

第六條 建築士タラムトスル者ハ建築士登録簿ニ登録ヲ受クルコトヲ要ス
建築士ノ登録ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 建築士ノ登録ヲ受ケムトスル者

ハ登録料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ
第八條 建築士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス
第九條 建築士本法ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行為若ハ業務上不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ建築士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

建築士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十條 建築士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 讀責
二 千圓以下ノ過料
三 一年以内建築士ノ業務ノ停止

四 建築士ノ業務ノ禁止
前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ執行ニ付之ヲ準用ス
第十一條 登録ヲ受ケスシテ建築士ト稱シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際迄引續キ一年以上建築ノ實務ニ従事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ五年以内ニ出願シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士試験委員ノ銜ヲ經テ建築士タルコトヲ得

○議長(公爵近衛文麿君) 二案ハ之ヲ會計検査院法中改正法律案外二件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 本日大西虎之介君ヨリ都合ニ依リ、日本銀行金買入法案特別委員辭任ノ申出ガゴザイマシタ、之ヲ許スコトニ御異議ハゴザイマセスカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナイト認メマス、就キマシテハ之ガ補闕トシテ青木才次郎君ヲ指名イタシマス、本日ノ議事ハ是ニテ終リマシタ、次會ノ議事日程ハ決定次第、彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日は是ニテ散會イタシマス
午後三時四十一分散會